

令和7年度第4回 東近江市高齢者保健福祉推進会議・介護保険運営協議会	資料 1
令和8年2月12日(木)	

## 第10期東近江市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画・東近江市認知症施策推進計画策定に係る市民アンケート集計（中間報告）

### 目次

1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 .....	1
2. 在宅介護実態調査 .....	13
3. 介護支援専門員調査 .....	26
4. 介護保険事業所調査 .....	36

#### <留意点>

分析結果を見る際の留意点は以下のとおりとなっています。

1. 「n」は「number」の略で、比率算出の母数のことです。
2. 単数回答の場合、本文及び図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記しています。このため、百分率の合計が100.0%とならない場合があります。
3. 複数回答の場合、図中にMA (Multiple Answer =いくつでも)、3LA (3 Limited Answer =三つまで)と記載しています。また、不明（無回答）はグラフ・表から除いている場合があります。
4. 表内において、**上位1位**、**上位2位**には色付けをしています。また、全体と比べて10ポイント以上高い場合には△、10ポイント以上低い場合には▼の記号を付けています。

# 1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

## <調査の実施について>

対象者	要介護認定を受けていない65歳以上の方（介護予防・日常生活支援総合事業対象者、要支援1及び2の方を含む）2,800人（無作為抽出）
実施期間	令和7年11月14日（金）～令和7年12月12日（金）
実施方法	郵送配布・郵送回収

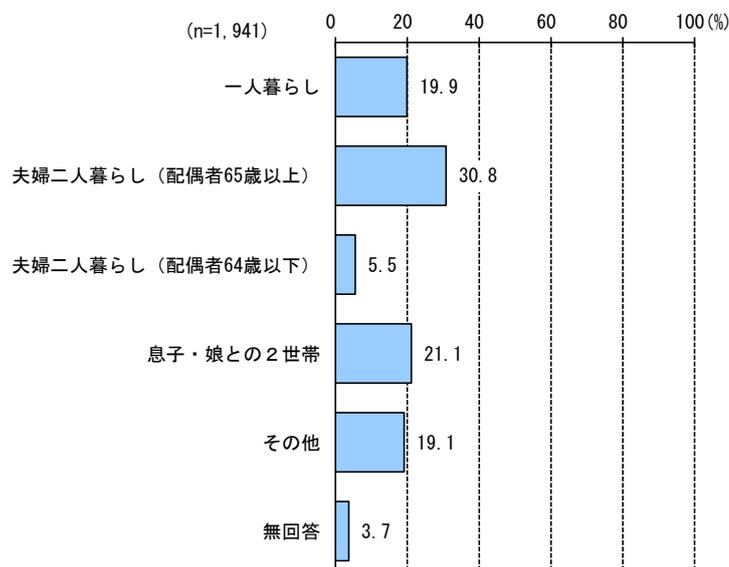
## <調査票の回収状況>

配布数	回収数	有効回答数	有効回答率
2,800件	1,962件	1,941件	69.3%

## ◇あなたのご家族や生活状況について

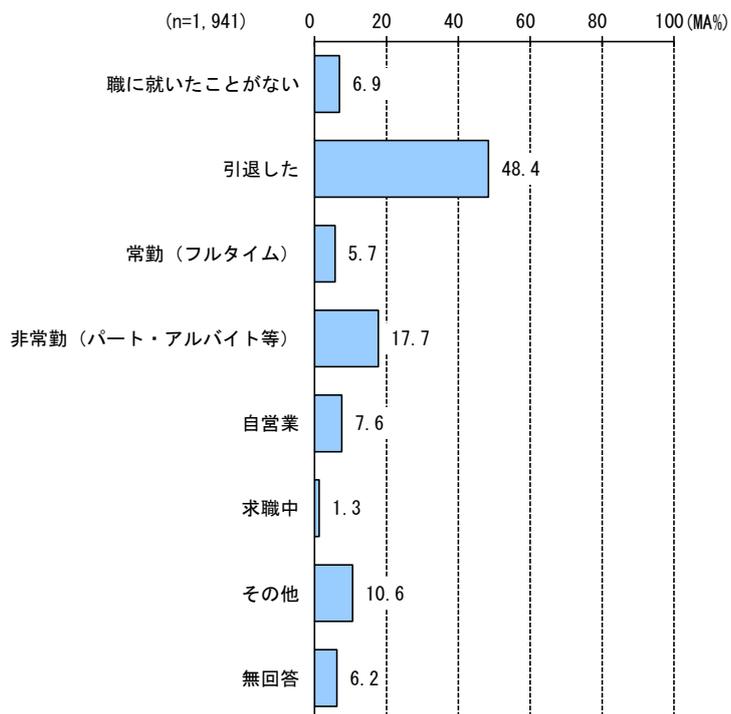
問1（1） 家族構成をお答えください。

○ 家族構成について、「夫婦二人暮らし（配偶者65歳以上）」が30.8%で最も多く、次いで「息子・娘との2世帯」が21.1%、「一人暮らし」が19.9%となっています。



### 問1 (5) 現在のあなたの就労状態はどれですか。(MA)

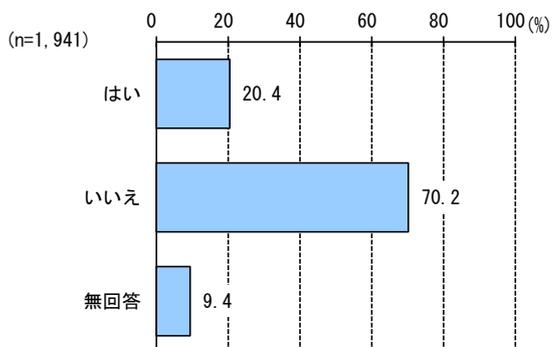
○ 現在の就労状態について、「引退した」が48.4%で最も多く、次いで「非常勤（パート・アルバイト等）」が17.7%、「その他」が10.6%となっています。



### ◇からだを動かすことについて

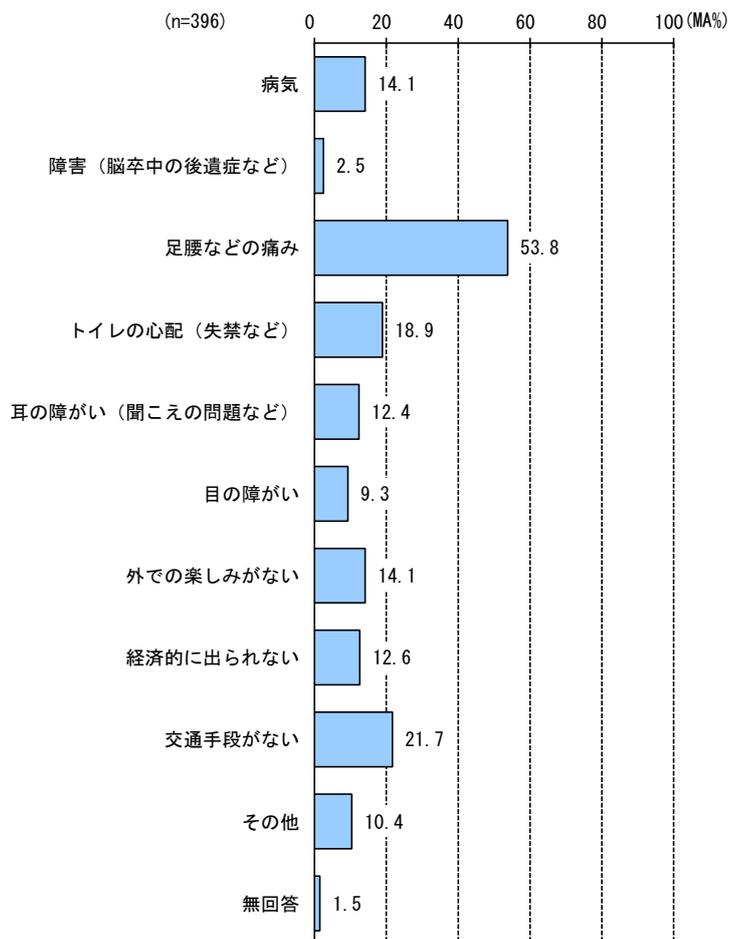
#### 問2 (8) 外出を控えていますか。

○ 外出を控えているかについて、「はい」が20.4%、「いいえ」が70.2%となっています。



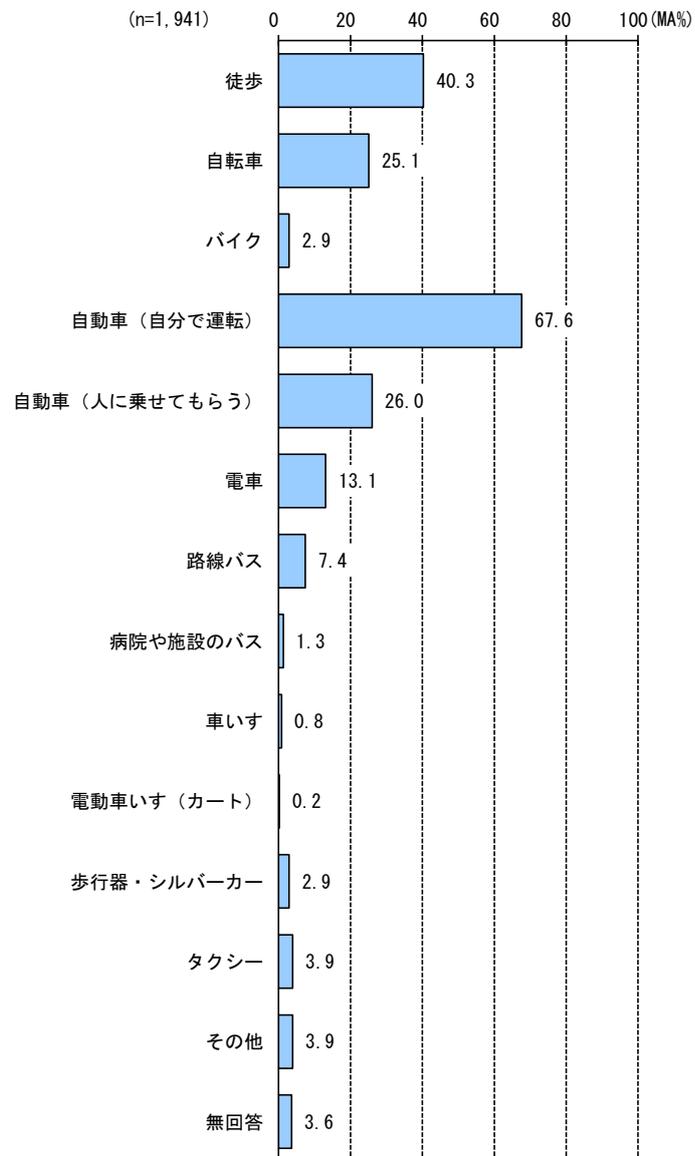
問2 (8) -1 外出を控えている理由は、次のうちどれですか。(MA)

○ 外出を控えている理由について、「足腰などの痛み」が 53.8%で最も多く、次いで「交通手段がない」が 21.7%、「トイレの心配 (失禁など)」が 18.9%となっています。



## 問2 (9) 外出する際の手段は何ですか。(MA)

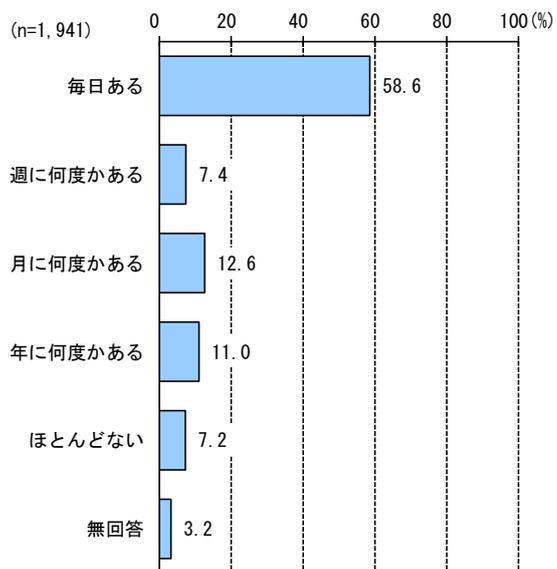
○ 外出する際の手段について、「自動車（自分で運転）」が 67.6%で最も多く、次いで「徒歩」が 40.3%、「自動車（人に乗せてもらう）」が 26.0%となっています。



## ◇食べることについて

問3 (8) どなたかと食事をとる機会がありますか。

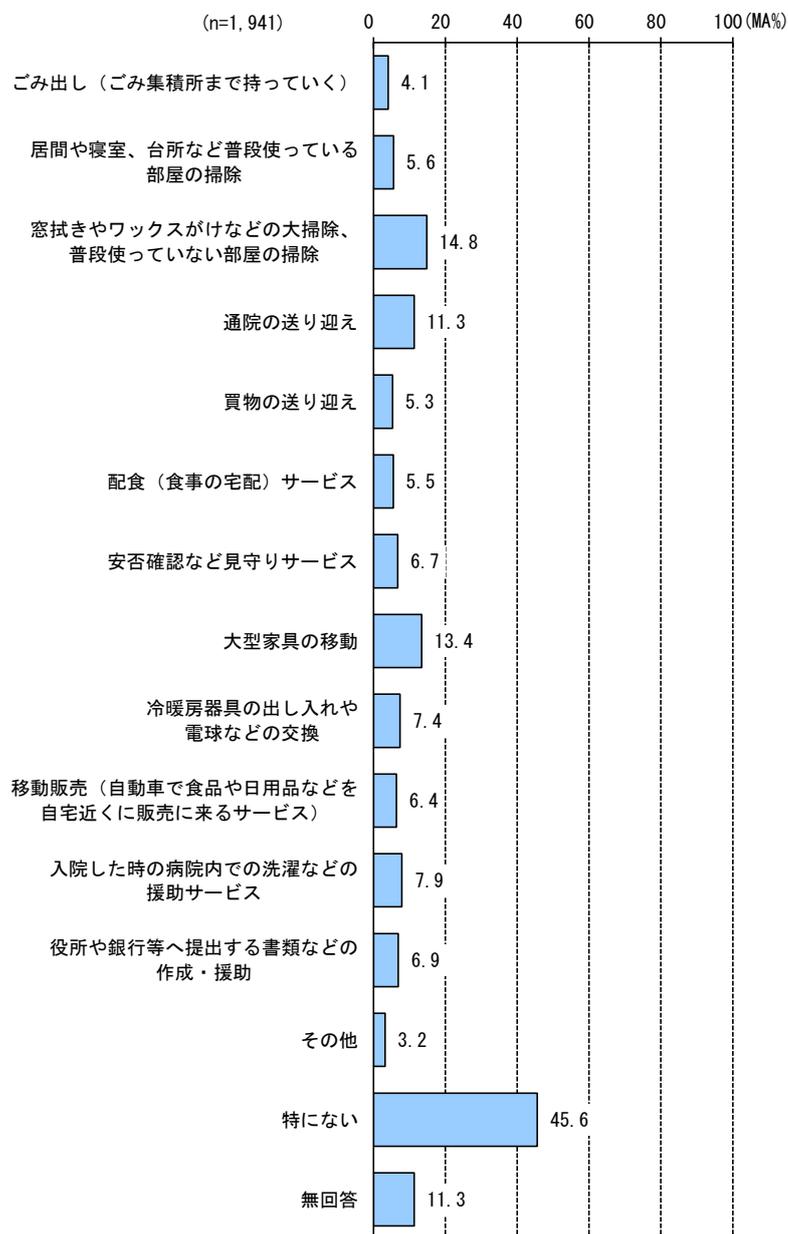
○ どなたかと食事をとる機会について、「毎日ある」が 58.6%で最も多く、次いで「月に何度かある」が 12.6%、「年に何度かある」が 11.0%となっています。



## ◇毎日の生活について

問4 (20) 介護保険サービス以外で、どのようなサービスや助け合いがあれば利用したいですか。(MA)

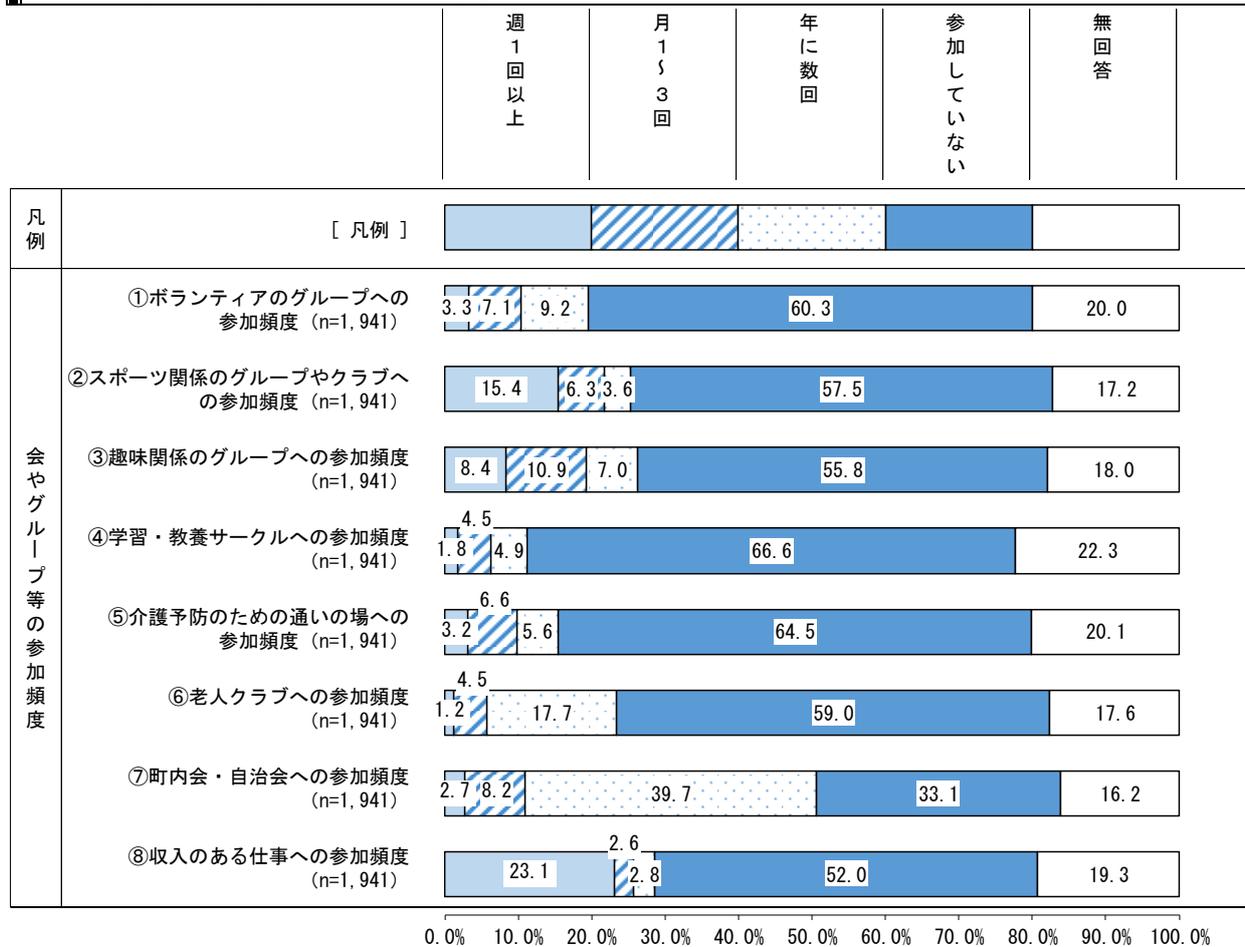
○ 介護保険サービス以外で、利用したいサービスや助け合いについて、「特にない」が 45.6%で最も多く、次いで「窓拭きやワックスがけなどの大掃除、普段使っていない部屋の掃除」が 14.8%、「大型家具の移動」が 13.4%となっています。



## ◇地域での活動について

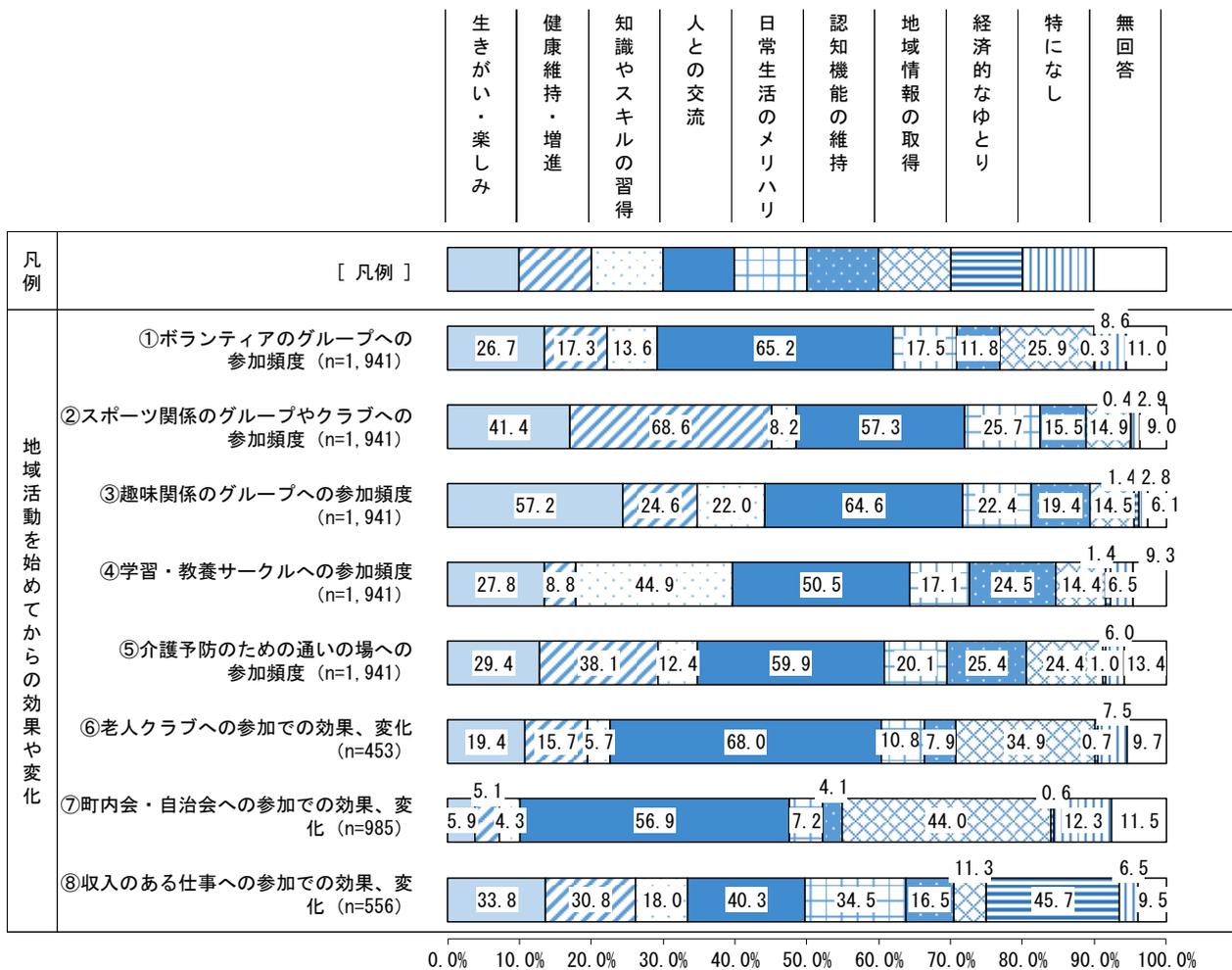
問5 (1) ①～⑧のような会・グループ等にどれくらいの頻度で参加していますか。

- 「週 1 回以上」の参加は、「⑧収入のある仕事への参加頻度」が 23.1%と最も高く、次いで「②スポーツ関係のグループやクラブへの参加頻度」が 15.4%となっています。
- 「月 1～3 回」の参加は、「③趣味関係のグループへの参加頻度」が 10.9%、「⑦町内会・自治会への参加頻度」が 8.2%と、他の項目に比べて多くなっています。
- 「年に数回」の参加は、「⑦町内会・自治会への参加頻度」が 39.7%と突出して高く、次いで「⑥老人クラブへの参加頻度」が 17.7%となっています。
- 「参加していない」は、「④学習・教養サークルへの参加頻度」が 66.6%、「⑤介護予防のための通いの場への参加頻度」が 64.5%、「①ボランティアのグループへの参加頻度」が 60.3%と、多くの項目で6割を超えています。



問5 (2) 地域活動を始めてから、からだや気持ちの上でどのような効果、変化がありましたか。

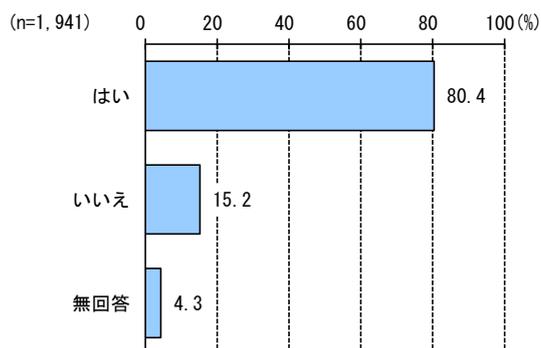
- 「生きがい・楽しみ」は、「③趣味関係のグループへの参加頻度」が 57.2%、「②スポーツ関係のグループやクラブへの参加頻度」が 41.4%となっています。
- 「健康維持・増進」は、「②スポーツ関係のグループやクラブへの参加頻度」が 68.6%と最も高く、次いで「⑤介護予防のための通いの場への参加頻度」が 38.1%となっています。
- 「知識やスキルの習得」は、「④学習・教養サークルへの参加頻度」が 44.9%と、他の項目に比べて高くなっています。
- 「人との交流」は、「⑥老人クラブへの参加での効果、変化」が 68.0%、「①ボランティアのグループへの参加頻度」が 65.2%、「③趣味関係のグループへの参加頻度」が 64.6%など、多くの項目で5割～6割を超えています。
- 「日常生活のメリハリ」は、「⑧収入のある仕事への参加での効果、変化」が 34.5%と最も高く、次いで「②スポーツ関係のグループやクラブへの参加頻度」が 25.7%、「③趣味関係のグループへの参加頻度」が 22.4%となっています。
- 「認知機能の維持」は、「⑤介護予防のための通いの場への参加頻度」が 25.4%、「④学習・教養サークルへの参加頻度」が 24.5%となっています。
- 「地域情報の取得」は、「⑦町内会・自治会への参加での効果、変化」が 44.0%、「⑥老人クラブへの参加での効果、変化」が 34.9%となっています。
- 「経済的なゆとり」は、「⑧収入のある仕事への参加での効果、変化」が 45.7%と、他の項目と比較して、高くなっています。



## ◇災害時の対応について

問8 (2) あなたは災害が発生した時の避難場所を知っていますか。

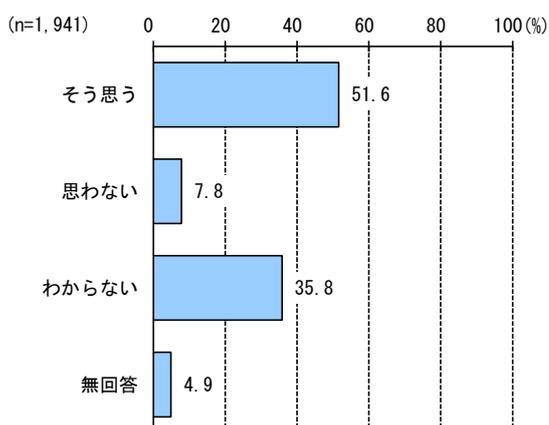
- 災害が発生した時の避難場所を知っているかについて、「はい」が80.4%、「いいえ」が15.2%となっています。



## ◇認知症について

問9 (4) 新しい認知症観を国は提唱しています。あなたのイメージはどうか。

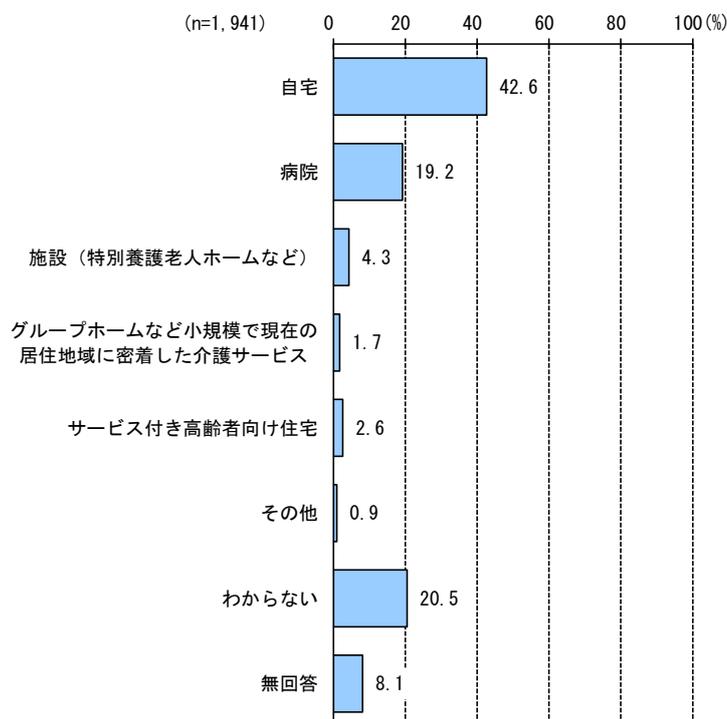
- 新しい認知症観を国は提唱しており、イメージはどうかについて、「そう思う」が51.6%で最も多く、次いで「わからない」が35.8%、「思わない」が7.8%となっています。



## ◇今後の暮らし方について

問10 (2) あなたは人生の最期（看取り）をどこで迎えたいですか。

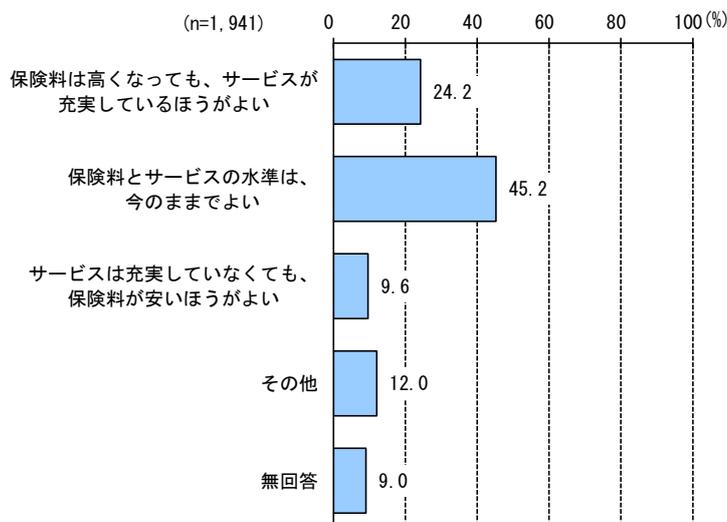
○ 人生の最期（看取り）をどこで迎えたいかについて、「自宅」が42.6%で最も多く、次いで「わからない」が20.5%、「病院」が19.2%となっています。



## ◇高齢者の権利擁護や介護保険制度について

問11 (4) あなたは、介護サービスの水準と介護保険料について、どのようにお考えですか。

○ 介護サービスの水準と介護保険料について、どのように考えているかについて、「保険料とサービスの水準は、今のままでよい」が45.2%で最も多く、次いで「保険料は高くなっても、サービスが充実しているほうがよい」が24.2%、「その他」が12.0%となっています。



## <アンケート結果から見る地域の現状と課題>

### ○あなたのご家族や生活状況について

・世帯構成の多様性：最も多いのは「夫婦二人暮らし（65歳以上）」（30.8%）ですが、「一人暮らし」も約2割（19.9%）を占めています。高齢者のみの世帯と単身高齢者の両方への支援や見守りの必要性を示唆しています。

・就労状況：約半数（48.4%）が引退している一方で、約2割（17.7%）は非常勤で就労しています。高齢者の就労意欲や社会参加のニーズが依然として存在していることが伺えます。

### ○からだを動かすことについて

・外出を控える背景：約2割（20.4%）が外出を控えており、その最大の理由は「足腰などの痛み」（53.8%）です。介護予防やフレイル対策の観点から、身体機能の維持・向上に向けた取り組みの重要性が浮き彫りになっています。

・移動手段の自動車依存：外出手段の約7割（67.6%）が「自動車（自分で運転）」に依存しています。これは、公共交通機関の利便性の課題や、将来的な運転免許返納後の移動手段確保が地域にとって大きな課題となる可能性を示しています。また、外出を控える理由として「交通手段がない」（21.7%）が2番目に多いこともこの点を裏付けています。

### ○食べることについて

・共食と孤食の状況：「毎日」誰かと食事をする人が約6割（58.6%）いる一方で、残りの約4割はそうではない状況です。孤食が高齢者の心身の健康に与える影響を考慮すると、地域での共食の機会（地域の食堂や食事会など）を創出・支援していくことの重要性が見て取れます。

### ○毎日の生活について

・潜在的な生活支援ニーズ：介護保険外で利用したいサービスとして「特にない」（45.6%）が最多ですが、これはサービスの必要性を感じていない層に加え、どのようなサービスが存在するか知らない層も含まれる可能性があります。一方で、「大掃除」（14.8%）や「大型家具の移動」（13.4%）といった具体的なニーズも明確になっており、日常生活における「ちょっとした困りごと」に対応する軽微な生活支援サービスの需要が高いことがわかります。

### ○地域での活動について

・外出頻度による活動参加の格差：外出頻度が「週1回以上」の層は各活動への参加率が総じて高い一方で、「ほとんど外出しない」層の参加率は大幅に低い現状があります。例えば「町内会・自治会」の参加率は「週1回以上」層が36.4%に対し、「ほとんど外出しない」層は20.1%となっており、外出機会の少ない層が地域から孤立しないための動機付けや参加支援が、今後の検討課題のひとつとなる傾向があります。

・地域活動がもたらす多角的な効果：地域活動への参加は、活動内容に応じた多様な効果をもたらしている様子がうかがえます。スポーツ関係での「健康維持・増進」（68.6%）や、学習サークルでの「知識・スキルの習得」（44.9%）、仕事を通じた「経済的なゆとり」（45.7%）など、活動目的が具体的な成果として現れている傾向が見て取れます。

・活動の種類を問わない「人との交流」の実感：活動の種類に関わらず「人との交流」を実感している割合が高く、老人クラブ（68.0%）やボランティア（65.2%）、趣味のグループ（64.6%）など、多くの活動で5～6割を超えています。地域活動は、高齢者の社会的なつながりを維持・構築するうえで、大切な役割を担っていることが推察されます。

#### ○災害時の対応について

・避難場所の認識：8割以上（80.4%）が避難場所を「知っている」と回答していますが、裏を返せば約15%は認識していません。災害時に支援が必要となる可能性のある高齢者層においてこの数字は看過できず、個別のアプローチも含めた周知徹底が依然として重要な課題です。

#### ○認知症について

・新しい認知症観の浸透と課題：国が提唱する新しい認知症観について、半数以上（51.6%）が肯定的に捉えています。しかし、「わからない」と回答した層も35.8%に上ることから、認知症に関する正しい知識や、共生社会の考え方についての継続的な普及・啓発活動が必要であることが示されています。

#### ○今後の暮らし方について

・在宅での看取りへの希望：人生の最期を迎えたい場所として4割以上（42.6%）が「自宅」を希望しています。この希望を叶えるためには、在宅医療・介護サービスの連携強化や、看取りを支える家族への支援体制の構築が不可欠です。

・終末期に関する意思決定支援：「わからない」という回答が2割（20.5%）存在することから、多くの人が終末期の過ごし方について具体的に考える機会を持っていない可能性があります。人生の最終段階における意思決定を支援するための情報提供や相談の場の必要性を示唆しています。

#### ○高齢者の権利擁護や介護保険制度について

・サービス水準と保険料負担に関する意識：「保険料とサービスの水準は、今のままでよい」という現状維持を望む声が45.2%で最多である一方、「保険料は高くなっても、サービスが充実しているほうがよい」と考える層も約4人に1人（24.2%）存在します。今後の制度設計においては、受益と負担に関する多様な住民の意向を丁寧に把握し、議論していく必要があります。

## 2. 在宅介護実態調査

### <調査の実施について>

対象者	要支援・要介護認定者及びその家族介護者 1,500 人（無作為抽出）
実施期間	令和7年11月14日（金）～令和7年12月12日（金）
実施方法	郵送配布・郵送回収

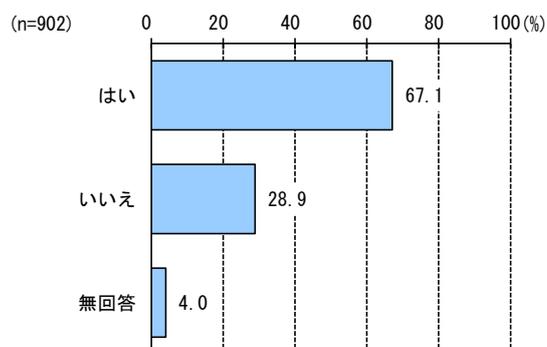
### <調査票の回収状況>

配布数	回収数	有効回答数	有効回答率
1,500 件	979 件	902 件	60.1%

### ◇日常生活について

問2（1） 外出を控えていますか。

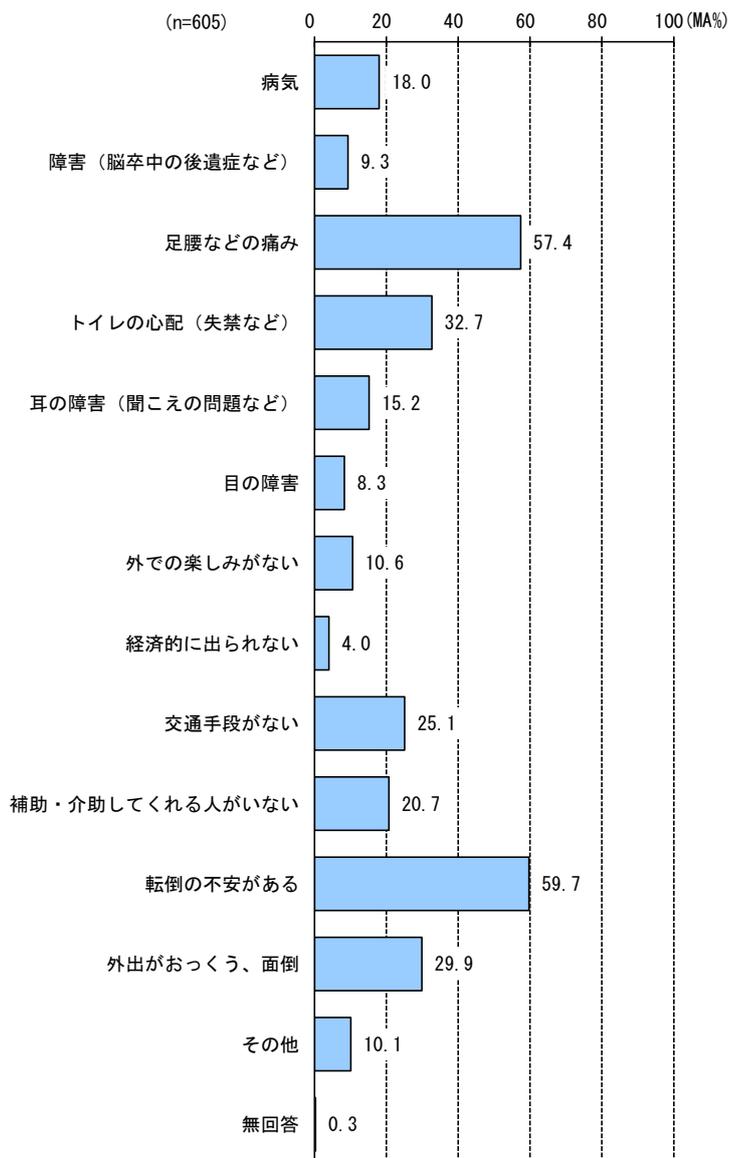
○ 外出を控えているかについて、「はい」が67.1%、「いいえ」が28.9%となっています。



問2 (1) -1 外出を控えている理由は、次のどれですか。(MA)

【全体】

○ 外出を控えている理由について、「転倒の不安がある」が 59.7%で最も多く、次いで「足腰などの痛み」が 57.4%、「トイレの心配 (失禁など)」が 32.7%となっています。



単位：%

		母数 (n)	問2 (1) -1 外出を控えている理由は、次のどれですか(MA)						
			病 気	障 害 (脳 卒 中 の 後 遺 症 等)	足 腰 な ど の 痛 み	(ト イ レ の 心 配 等)	(耳 の 障 害 等)	目 の 障 害	外 で の 楽 し み が な い
全体		605	18.0	9.3	57.4	32.7	15.2	8.3	10.6
性 別	男性	204	22.1	15.2	▼46.6	34.8	14.7	8.3	13.2
	女性	401	16.0	6.2	62.8	31.7	15.5	8.2	9.2
年 齢	65歳未満	7	△71.4	△28.6	▼28.6	△71.4	-	-	14.3
	65～74歳	42	19.0	△26.2	▼45.2	28.6	7.1	14.3	11.9
	75～84歳	198	21.2	13.6	51.5	31.8	7.6	5.1	12.1
	85歳以上	358	15.1	4.5	62.6	33.0	20.7	9.5	9.5
性・ 年 齢	男性(65～74歳)	23	13.0	△34.8	▼39.1	34.8	▼4.3	13.0	13.0
	男性(75～84歳)	85	27.1	△20.0	▼41.2	30.6	8.2	7.1	14.1
	男性(85歳以上)	94	19.1	6.4	54.3	38.3	23.4	8.5	12.8
	女性(65～74歳)	19	26.3	15.8	52.6	▼21.1	10.5	15.8	10.5
	女性(75～84歳)	113	16.8	8.8	59.3	32.7	7.1	3.5	10.6
	女性(85歳以上)	264	13.6	3.8	65.5	31.1	19.7	9.8	8.3
状 態 区 分	要支援	228	16.7	6.6	△69.7	26.8	15.8	10.1	11.8
	要介護1・2	252	15.5	9.5	52.4	36.1	16.3	7.1	10.3
	要介護3～5	124	25.8	13.7	▼44.4	37.1	12.1	7.3	8.9

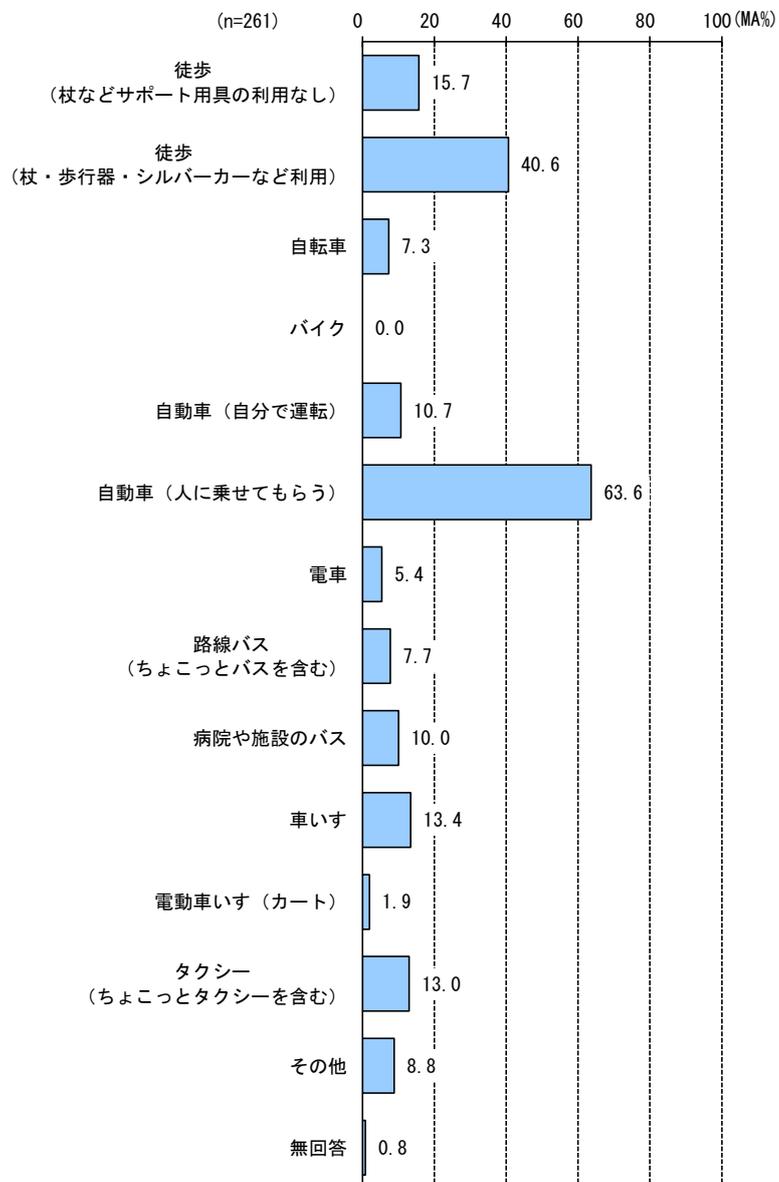
単位：%

		母数 (n)	問2 (1) -1 外出を控えている理由は、次のどれですか(MA)						
			経 済 的 に 出 ら れ な い	交 通 手 段 が な い	人 補 助 ・ 介 助 し て く れ る	転 倒 の 不 安 が あ る	外 出 が お つ く う 、 面 倒	そ の 他	無 回 答
全体		605	4.0	25.1	20.7	59.7	29.9	10.1	0.3
性 別	男性	204	6.4	25.5	15.2	63.7	31.4	9.8	0.5
	女性	401	2.7	24.9	23.4	57.6	29.2	10.2	0.2
年 齢	65歳未満	7	-	▼14.3	△42.9	57.1	▼14.3	14.3	-
	65～74歳	42	7.1	△38.1	19.0	54.8	31.0	7.1	-
	75～84歳	198	2.5	26.3	13.6	52.0	33.3	10.1	1.0
	85歳以上	358	4.5	23.2	24.3	64.5	28.2	10.3	-
性・ 年 齢	男性(65～74歳)	23	8.7	21.7	17.4	56.5	39.1	4.3	-
	男性(75～84歳)	85	4.7	22.4	▼10.6	58.8	38.8	9.4	1.2
	男性(85歳以上)	94	7.4	29.8	19.1	69.1	23.4	11.7	-
	女性(65～74歳)	19	5.3	△57.9	21.1	52.6	21.1	10.5	-
	女性(75～84歳)	113	0.9	29.2	15.9	▼46.9	29.2	10.6	0.9
	女性(85歳以上)	264	3.4	20.8	26.1	62.9	29.9	9.8	-
状 態 区 分	要支援	228	5.3	32.5	19.3	63.2	28.9	6.6	0.4
	要介護1・2	252	4.4	25.4	23.0	59.1	33.3	9.5	0.4
	要介護3～5	124	0.8	▼11.3	18.5	54.8	25.0	17.7	-

## 問2 (2) 外出する際の移動手段は何ですか。(MA)

### 【全体】

- 外出する際の移動手段について、「自動車（人に乗せてもらう）」が 63.6%で最も多く、次いで「徒歩（杖・歩行器・シルバーカーなど利用）」が 40.6%、「徒歩（杖などサポート用具の利用なし）」が 15.7%となっています。



単位：%

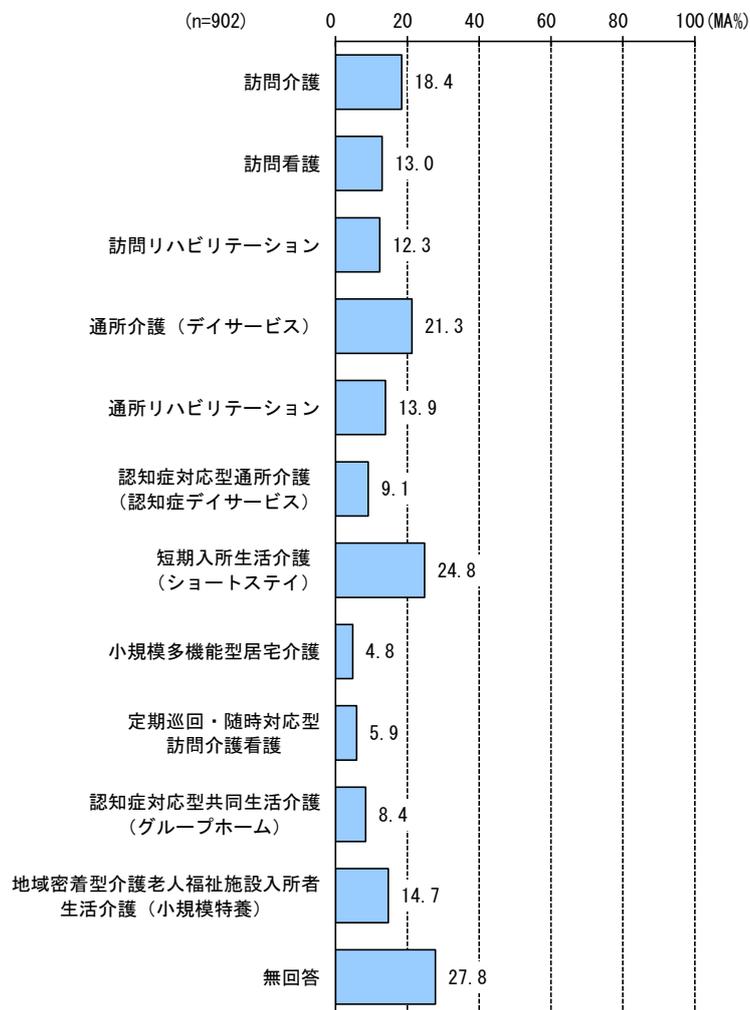
単位：%

	母数 (n)	問2 (2) 外出する際の移動手段は何ですか(MA)							問2 (2) 外出する際の移動手段は何ですか(MA)							
		徒歩 (杖などサポ ート 利用なし)	徒歩 (杖・歩行器・ シルバーカー など利用)	自 転 車	バ イ ク	自 動 車 (自分 で運 転)	自 動 車 (人 に 乗 せ て ら う)	電 車	路 線 バ ス (ち よ こ つ と を 含 む)	病 院 や 施 設 の バ ス	車 い す	電 動 車 い す (カ ー ト)	タ ク シ ー (ち よ こ つ と を 含 む)	そ の 他	無 回 答	
全体	261	15.7	40.6	7.3	-	10.7	63.6	5.4	7.7	10.0	13.4	1.9	13.0	8.8	0.8	
性別	男性	93	20.4	▼ 25.8	14.0	-	16.1	53.8	9.7	9.7	7.5	15.1	4.3	12.9	10.8	1.1
	女性	168	13.1	48.8	3.6	-	7.7	69.0	3.0	6.5	11.3	12.5	0.6	13.1	7.7	0.6
年齢	65歳未満	6	16.7	-	-	-	△ 33.3	▼ 50.0	△ 16.7	16.7	-	△ 33.3	-	16.7	-	16.7
	65～74歳	35	14.3	▼ 25.7	5.7	-	20.0	65.7	8.6	2.9	8.6	17.1	2.9	14.3	8.6	-
	75～84歳	110	18.2	44.5	10.0	-	14.5	60.0	8.2	10.9	10.0	12.7	1.8	11.8	7.3	0.9
	85歳以上	110	13.6	43.6	5.5	-	2.7	67.3	0.9	5.5	10.9	11.8	1.8	13.6	10.9	-
性・年齢	男性 (65～74歳)	17	11.8	▼ 11.8	11.8	-	△ 23.5	64.7	5.9	5.9	11.8	11.8	5.9	5.9	11.8	-
	男性 (75～84歳)	46	19.6	37.0	15.2	-	19.6	▼ 50.0	15.2	10.9	8.7	17.4	2.2	15.2	10.9	-
	男性 (85歳以上)	27	△ 29.6	▼ 18.5	14.8	-	-	55.6	-	7.4	3.7	14.8	7.4	14.8	11.1	-
	女性 (65～74歳)	18	16.7	38.9	-	-	16.7	66.7	11.1	-	5.6	22.2	-	22.2	5.6	-
	女性 (75～84歳)	64	17.2	50.0	6.3	-	10.9	67.2	3.1	10.9	10.9	9.4	1.6	9.4	4.7	1.6
	女性 (85歳以上)	83	8.4	△ 51.8	2.4	-	3.6	71.1	1.2	4.8	13.3	10.8	-	13.3	10.8	-
要介護 区分	要支援	122	12.3	△ 53.3	6.6	-	18.9	54.9	7.4	9.8	9.8	6.6	2.5	16.4	6.6	1.6
	要介護1・2	104	22.1	32.7	9.6	-	2.9	68.3	4.8	7.7	10.6	11.5	1.0	12.5	7.7	-
	要介護3～5	34	8.8	▼ 17.6	2.9	-	5.9	△ 79.4	-	-	8.8	△ 44.1	2.9	▼ 2.9	△ 20.6	-

## ◇介護保険サービス等や介護保険制度について

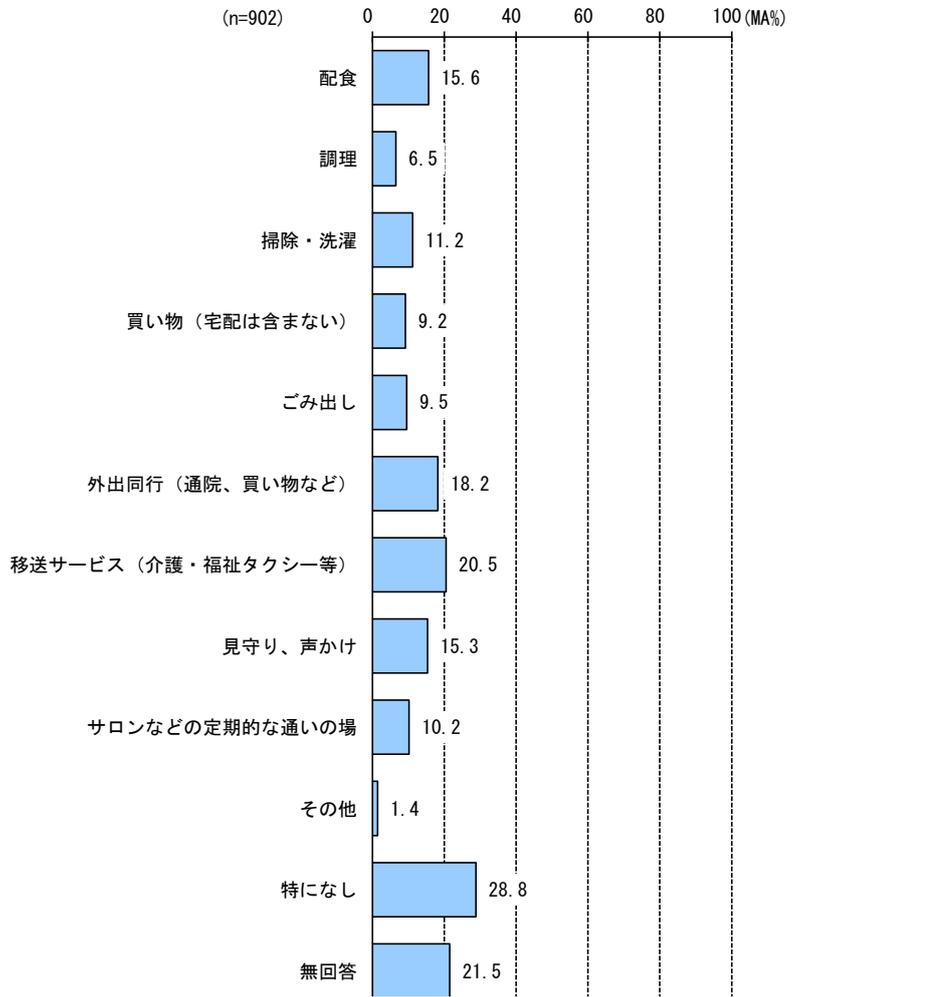
問4 (4) 今後の介護保険サービスの利用意向についておたずねします。以下のサービスについて、今後新たに利用したい介護保険サービスは何ですか。(MA)

○ 今後新たに利用したい介護保険サービスについて、「短期入所生活介護（ショートステイ）」が24.8%で最も多く、次いで「通所介護（デイサービス）」が21.3%、「訪問介護」が18.4%となっています。



問4 (6) 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについて、お答えください。(MA)

【全体】  
 ○ 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについて、「特になし」が 28.8%で最も多く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 20.5%、「外出同行（通院、買い物など）」が 18.2%となっています。

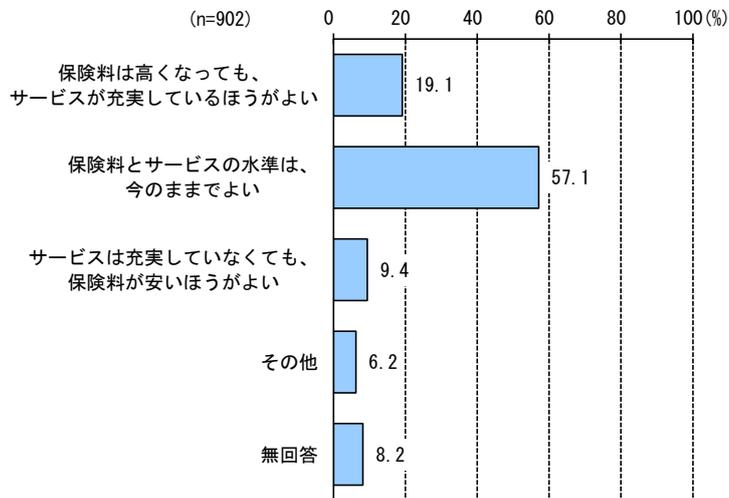


		母数 (n)	問4 (6) 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについて、お答えください (MA)											
			配食	調理	掃除・洗濯	含 買 ま い 物 （ 宅 配 は ）	ご み 出 し	買 外 出 行 （ 通 院 、 買 い 物 な ど ）	シ ー （ 介 護 ・ 福 祉 タ ク シ ー 等 ）	移 送 サ ー ビ ス （ 介 護 ・ 福 祉 タ ク シ ー 等 ）	見 守 り 、 声 か け	的 サ ロ ン な ど の 定 期 的 な 通 い の 場	そ の 他	特 に な し
全体		902	15.6	6.5	11.2	9.2	9.5	18.2	20.5	15.3	10.2	1.4	28.8	21.5
性別	男性	314	16.2	7.6	8.9	9.6	7.6	20.4	24.2	13.7	8.3	1.9	24.8	24.8
	女性	588	15.3	6.0	12.4	9.0	10.5	17.0	18.5	16.2	11.2	1.2	31.0	19.7
年齢	65歳未満	14	△ 42.9	△ 21.4	△ 35.7	7.1	△ 21.4	△ 42.9	△ 42.9	14.3	7.1	-	▼ 7.1	7.1
	65～74歳	84	6.0	2.4	7.1	7.1	8.3	15.5	16.7	10.7	13.1	3.6	32.1	17.9
	75～84歳	317	13.9	6.0	9.8	9.5	8.8	16.1	21.1	12.3	6.6	0.3	28.1	22.7
	85歳以上	487	17.7	7.2	12.1	9.4	9.9	19.3	20.1	18.1	12.1	1.8	29.4	21.8
性・年齢	男性 (65～74歳)	43	▼ 4.7	2.3	-	2.3	2.3	16.3	20.9	16.3	9.3	7.0	32.6	18.6
	男性 (75～84歳)	137	13.1	5.1	5.1	8.0	6.6	12.4	19.7	6.6	5.1	-	26.3	32.1
	男性 (85歳以上)	128	22.7	11.7	14.8	13.3	10.2	△ 29.7	29.7	21.1	11.7	2.3	21.1	20.3
	女性 (65～74歳)	41	7.3	2.4	14.6	12.2	14.6	14.6	12.2	▼ 4.9	17.1	-	31.7	17.1
	女性 (75～84歳)	180	14.4	6.7	13.3	10.6	10.6	18.9	22.2	16.7	7.8	0.6	29.4	15.6
	女性 (85歳以上)	359	15.9	5.6	11.1	8.1	9.7	15.6	16.7	17.0	12.3	1.7	32.3	22.3
要介護区分	要支援	372	14.8	5.4	12.1	9.7	10.8	16.9	18.0	13.2	11.0	1.9	27.2	23.7
	要介護1・2	362	17.1	7.5	11.6	11.0	9.9	22.4	21.0	19.3	10.5	1.1	30.7	17.1
	要介護3～5	166	13.3	7.2	7.8	4.2	5.4	12.0	24.7	10.8	7.2	1.2	28.9	26.5

## ◇高齢者の権利擁護について

問5 (3) あなたは、介護サービスの水準と介護保険料について、どのようにお考えですか。

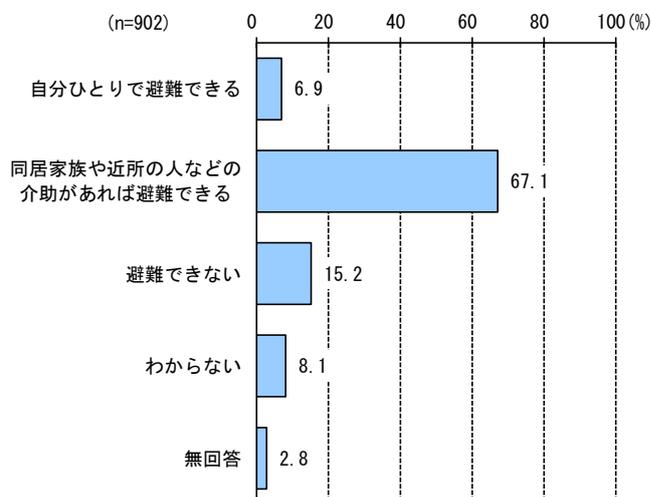
- 介護サービスの水準と介護保険料について、「保険料とサービスの水準は、今のままでよい」が57.1%で最も多く、次いで「保険料は高くなっても、サービスが充実しているほうがよい」が19.1%、「サービスは充実してなくても、保険料が安いほうがよい」が9.4%となっています。



## ◇災害時の対応について

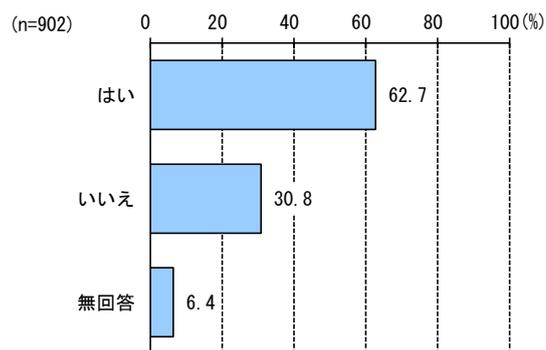
問6 (1) 災害が発生したとき、避難できますか。

- 災害が発生時、避難できるかについて、「同居家族や近所の人などの介助があれば避難できる」が67.1%で最も多く、次いで「避難できない」が15.2%、「わからない」が8.1%となっています。



### 問6 (2) 災害が発生したときの避難場所を知っていますか。

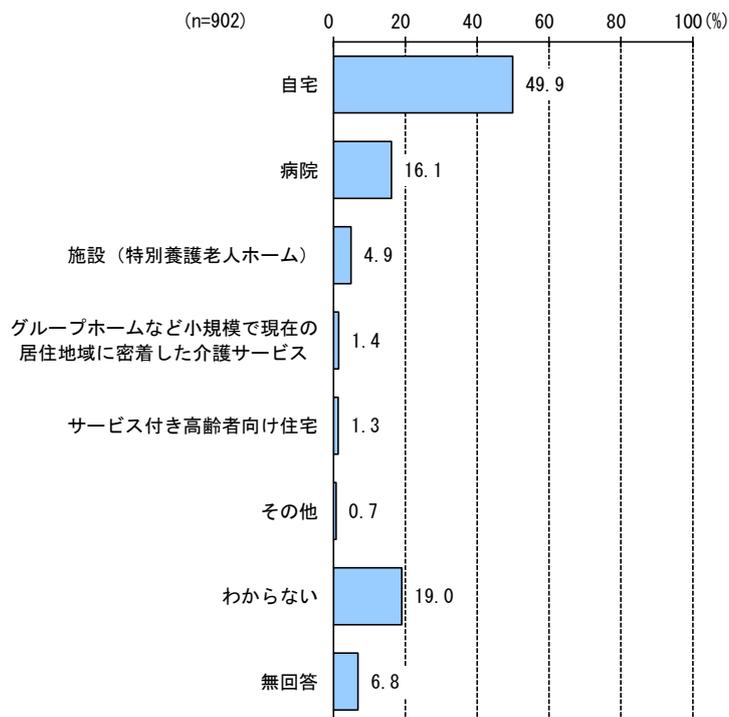
○ 災害が発生したときの避難場所を知っているかについて、「はい」が62.7%、「いいえ」が30.8%となっています。



### ◇今後の暮らし方について

#### 問7 (3) あなたは人生の最期（看取り）をどこで迎えたいですか。

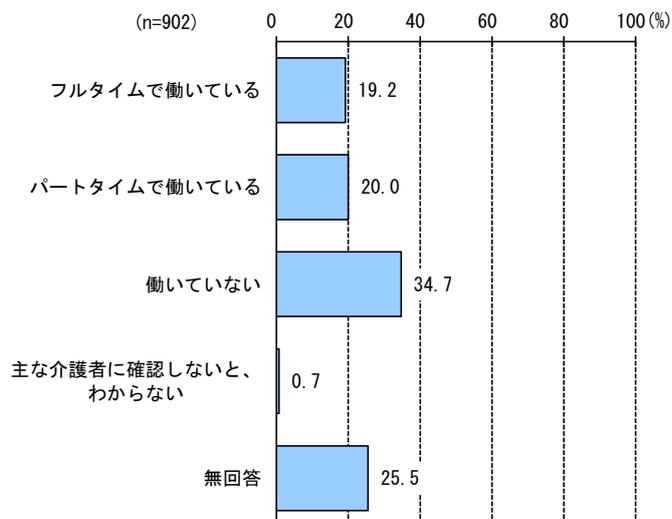
○ 人生の最期（看取り）をどこで迎えたいかについて、「自宅」が49.9%で最も多く、次いで「わからない」が19.0%、「病院」が16.1%となっています。



## ◇介護者ご本人のことや介護の状況について

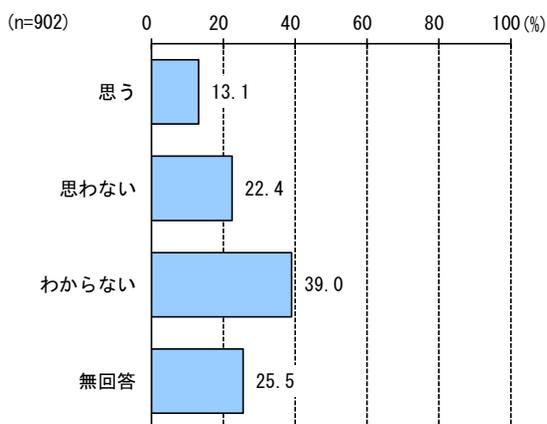
問9 (7) 主な介護者の方の現在の勤務形態について、お答えください。

- 主な介護者の方の現在の勤務形態について、「働いていない」が 34.7%で最も多く、次いで「パートタイムで働いている」が 20.0%、「フルタイムで働いている」が 19.2%となっています。



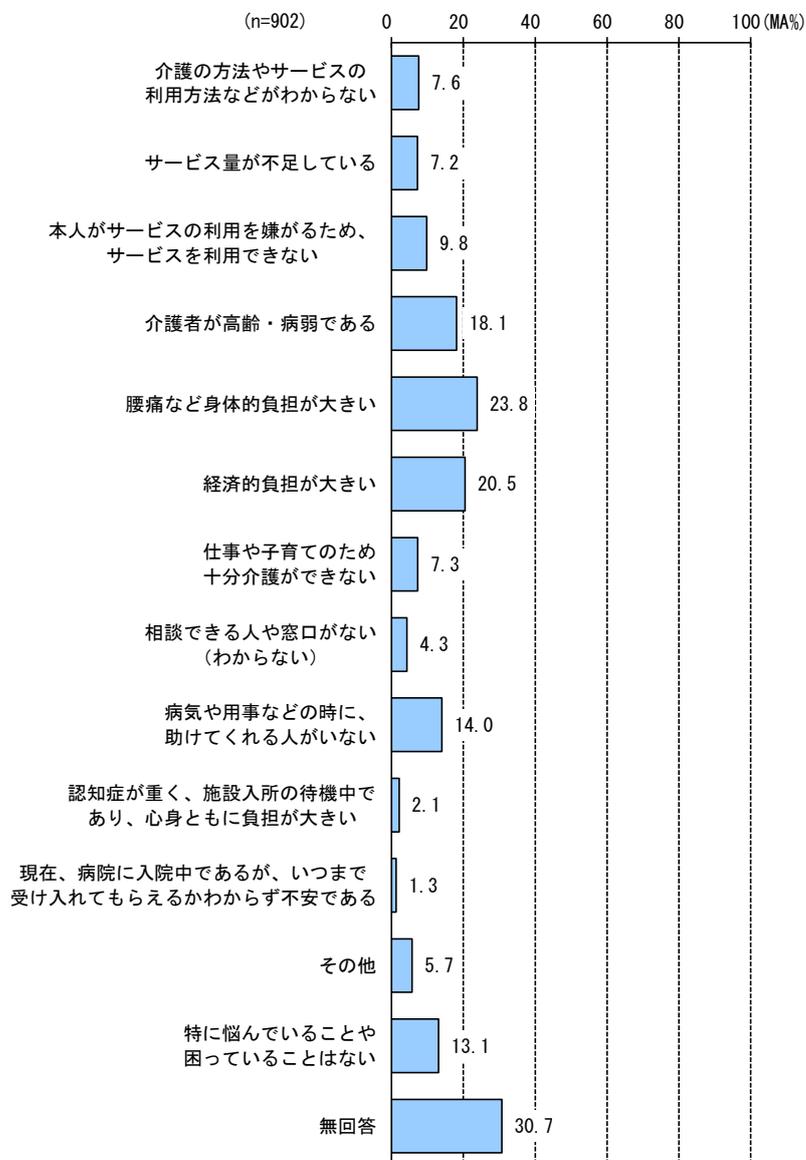
問9 (10) あなたは、「生活の様々な場面で認知症の人の意思が尊重され、本人の望む生活が継続できている」と思いますか。

- 「生活の様々な場面で認知症の人の意思が尊重され、本人の望む生活が継続できている」と思うかについて、「わからない」が 39.0%で最も多く、次いで「思わない」が 22.4%、「思う」が 13.1%となっています。



問9 (13) 現在介護に関することで困っていることや不安に思っていることがありますか。(MA)

○ 現在介護に関することで困っていることや不安に思っていることについて、「腰痛など身体的負担が大きい」が 23.8%で最も多く、次いで「経済的負担が大きい」が 20.5%、「介護者が高齢・病弱である」が 18.1%となっています。



## <アンケート結果から見る地域の現状と課題>

### ○日常生活について

- ・外出を控える高齢者の実態と要因：回答者の約 7 割（67.1%）が外出を控えている実態があります。その主な理由として「転倒の不安」（59.7%）や「足腰などの痛み」（57.4%）が挙げられており、身体的な不安が外出の大きな障壁となっていることが推察されます。
- ・移動手段の依存性：外出する際の移動手段は「自動車（人に乗せてもらう）」が 63.6%で最も多く、次いで杖や歩行器等を利用した「徒歩」（40.6%）となっています。自力での移動が困難な方が多く、他者や福祉用具への依存度が高い状況がうかがえます。

### ○介護保険サービス等や介護保険制度について

- ・将来的なサービス利用意向：今後新たに利用したいサービスとして、「ショートステイ」（24.8%）や「デイサービス」（21.3%）といった、介護者の休息（レスパイトケア）や日中の活動支援につながるサービスのニーズが高い傾向にあります。
- ・在宅生活継続に必要な支援：在宅生活を続けるために必要と感じる支援としては、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（20.5%）や「外出同行」（18.2%）が上位に挙がっています。これは、日常生活における移動・外出の課題を解決するための支援が強く求められていると考えられます。

### ○高齢者の権利擁護について

- ・介護保険料とサービス水準に関する意識：介護保険料とサービスの水準については、「今のままでよい」という現状維持を望む声が 57.1%と過半数を占めています。一方で、約 2 割（19.1%）は「保険料は高くなっても、サービスが充実しているほうがよい」と回答しており、サービス向上への期待も一定数存在することが見受けられます。

### ○災害時の対応について

- ・災害時の避難可否と支援の必要性：災害発生時の避難について、「同居家族や近所の人などの介助があれば避難できる」との回答が 67.1%で最多となっています。一方で「避難できない」とする回答も 15.2%存在することから、自力避難が困難な高齢者に対し、地域全体でどのように支えていくかが今後の重要な検討課題のひとつであると考えられます。
- ・避難場所の認知度における課題：災害時の避難場所を「知らない」と回答した方が 30.8%にのぼります。3 人に 1 人が避難場所を把握していないという事実は、特に支援が必要な高齢者世帯における防災・減災対策の重要な課題であると推測されます。

### ○今後の暮らし方について

- ・人生の最期を過ごしたい場所：人生の最期を迎えたい場所として、約半数（49.9%）が「自宅」を希望しています。この結果は、住み慣れた自宅で最期まで暮らしたいという強い意向を示しており、在宅での看取りを支える医療・介護体制の重要性がうかがえます。

### ○介護者ご本人のことや介護の状況について

- ・認知症の人の意思尊重に対する意識：認知症の人の意思が尊重され、本人の望む生活が継続できているかという問いに対し、「わからない」が 39.0%で最多、次いで「思わない」が 22.4%となっています。

このことから、地域生活において認知症の人の意思決定支援や、望む暮らしの実現には依然として課題があると感じられている実態がうかがえます。

・介護者が直面する負担：介護における困りごとや不安として、「腰痛など身体的負担が大きい」(23.8%)、「経済的負担が大きい」(20.5%)、「介護者が高齢・病弱である」(18.1%)が上位を占めています。介護者の心身、経済、そして健康状態への負担が深刻であることがうかがえます。

・「介護と仕事の両立」という課題：主な介護者のうち、「パートタイム」(20.0%)と「フルタイム」(19.2%)を合わせると約4割が就労しています。「働いていない」が34.7%で最多ではあるものの、多くの介護者が仕事と介護の両立という大きな課題を抱えている実態にある傾向が見られます。

### 3. 介護支援専門員調査

#### <調査の実施について>

対象者	介護支援専門員 109 人
実施期間	令和 7 年 11 月 14 日（金）～令和 7 年 12 月 16 日（火）
実施方法	インターネット回答

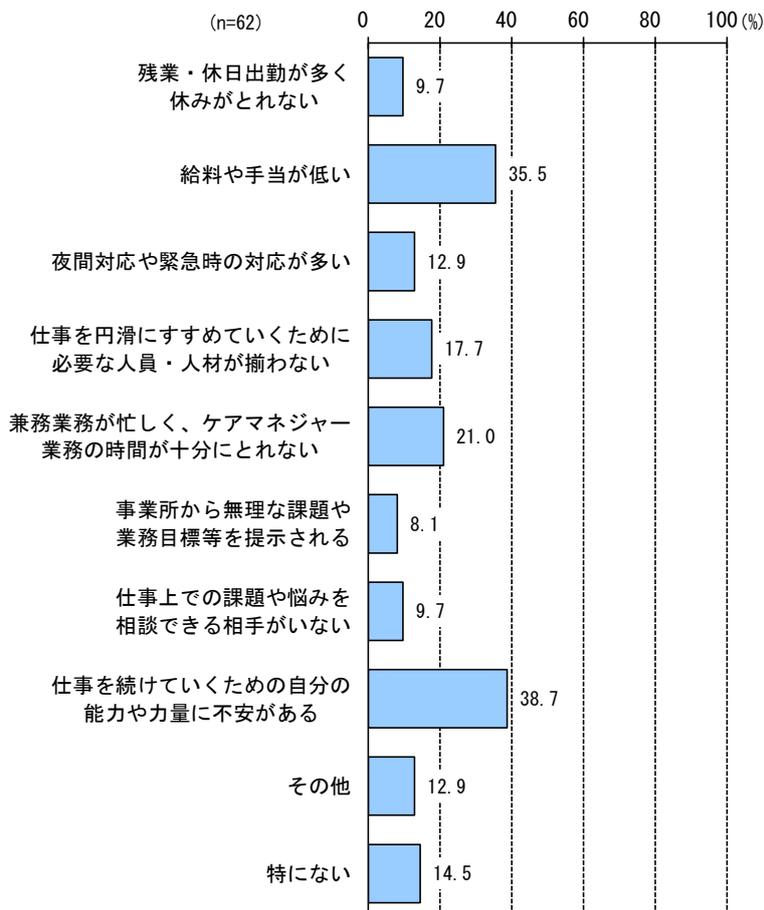
#### <調査票の回収状況>

配布数	回収数	有効回答数	有効回答率
109 件	62 件	62 件	56.9%

#### ◇あなたご自身のことについて

##### 問1 (8) 勤務上の悩み (3LA)

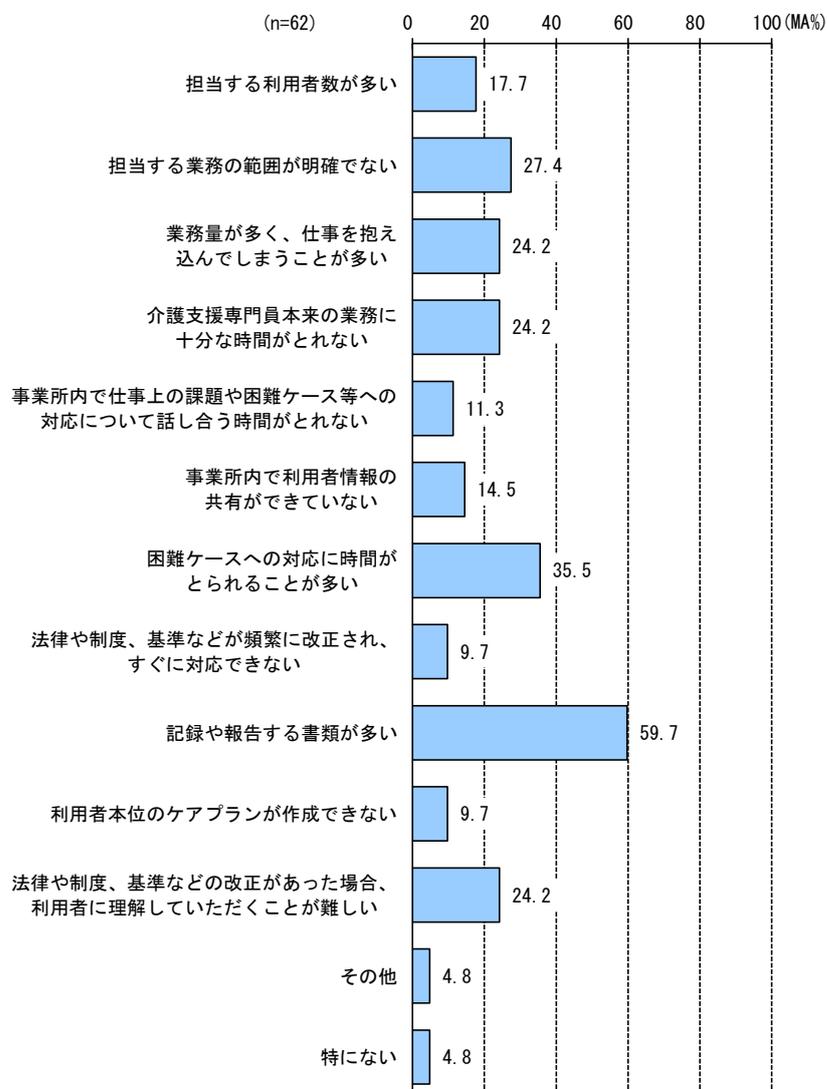
○ 勤務上の悩みについて、「仕事を続けていくための自分の能力や力量に不安がある」が 38.7%で最も多く、次いで「給料や手当が低い」が 35.5%、「兼務業務が忙しく、ケアマネジャー業務の時間が十分にとれない」が 21.0%となっています。



## ◇日常業務のすすめ方について

### 問3 (1) 業務を行う上での悩みはありますか。(MA)

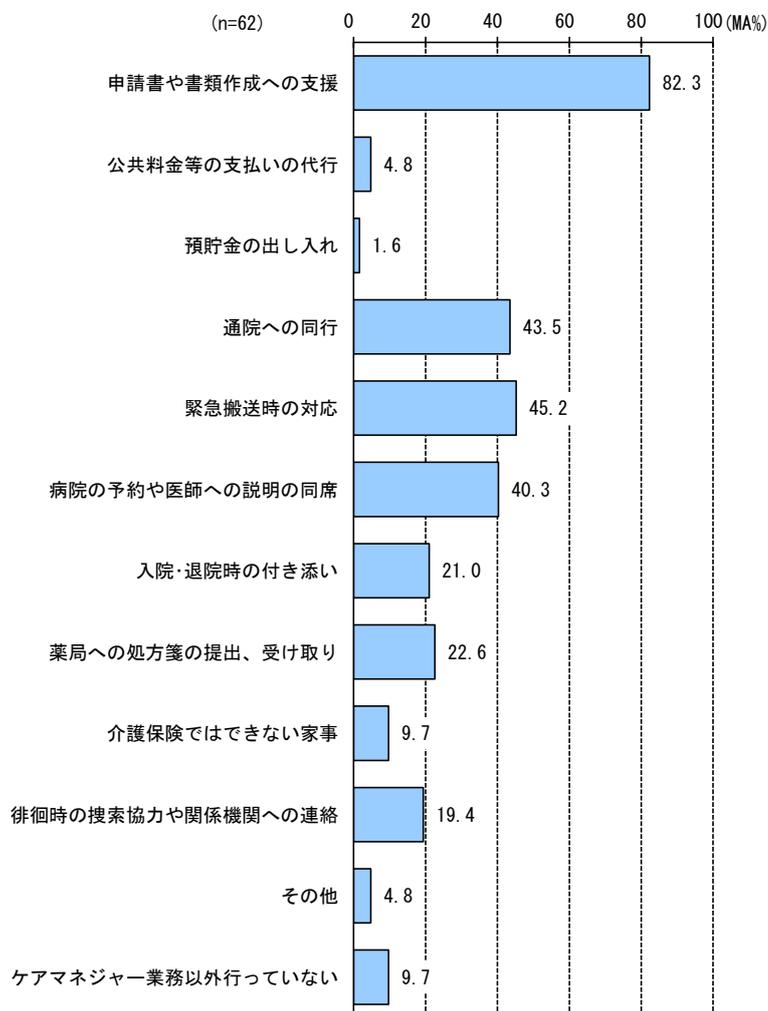
○ 業務を行う上での悩みについて、「記録や報告する書類が多い」が 59.7%で最も多く、次いで「困難ケースへの対応に時間がとられることが多い」が 35.5%、「担当する業務の範囲が明確でない」が 27.4%となっています。



問3 (5) ① ケアマネジャーの業務以外で行っている支援についておたずねします。

(MA)

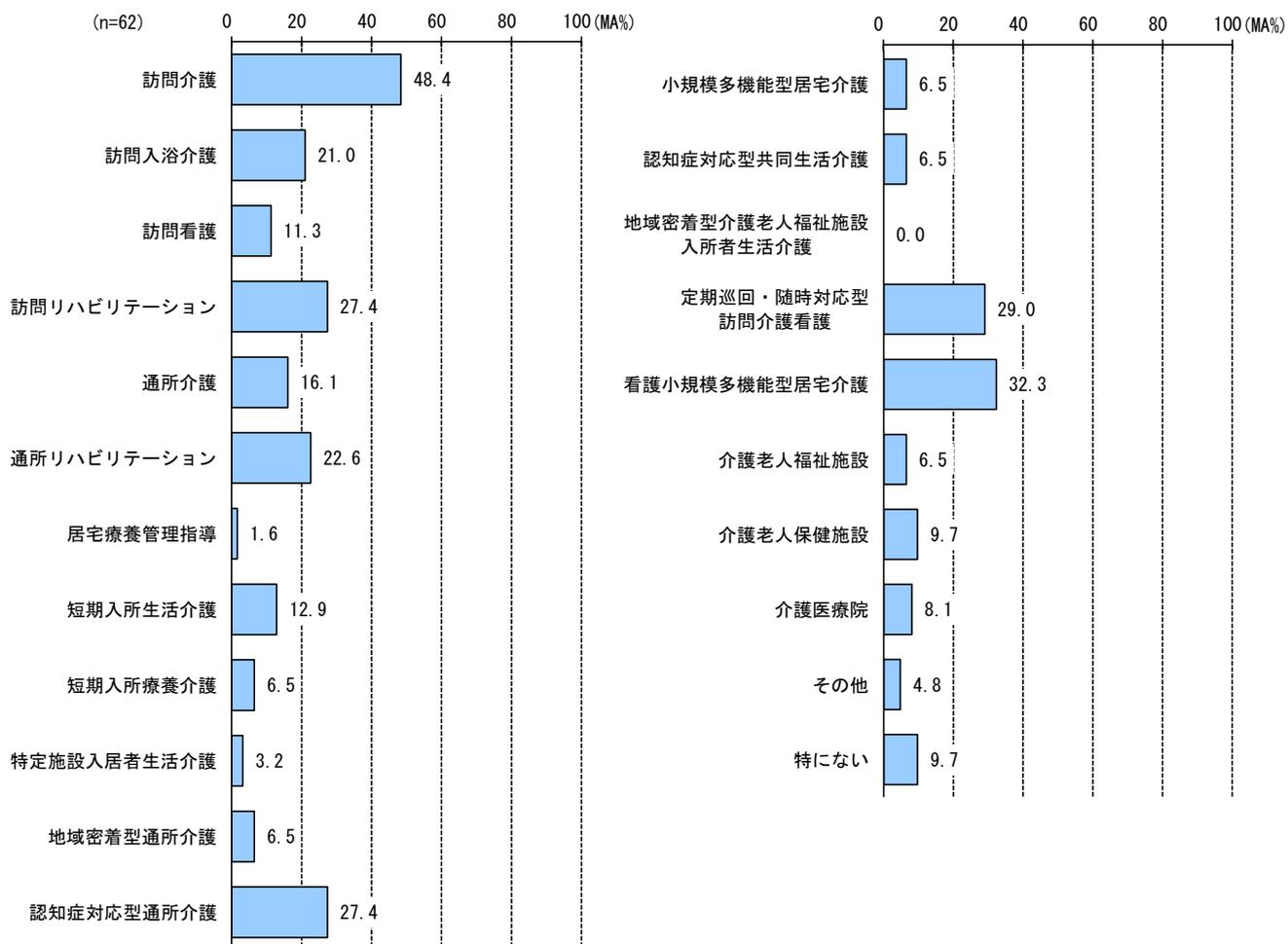
○ ケアマネジャーの業務以外で行っている支援について、「申請書や書類作成への支援」が 82.3%で最も多く、次いで「緊急搬送時の対応」が 45.2%、「通院への同行」が 43.5%となっています。



## ◇介護保険サービス等について

問7 (1) 東近江市で、供給量が不足していると感じている介護保険サービスや施設は何ですか。(MA)

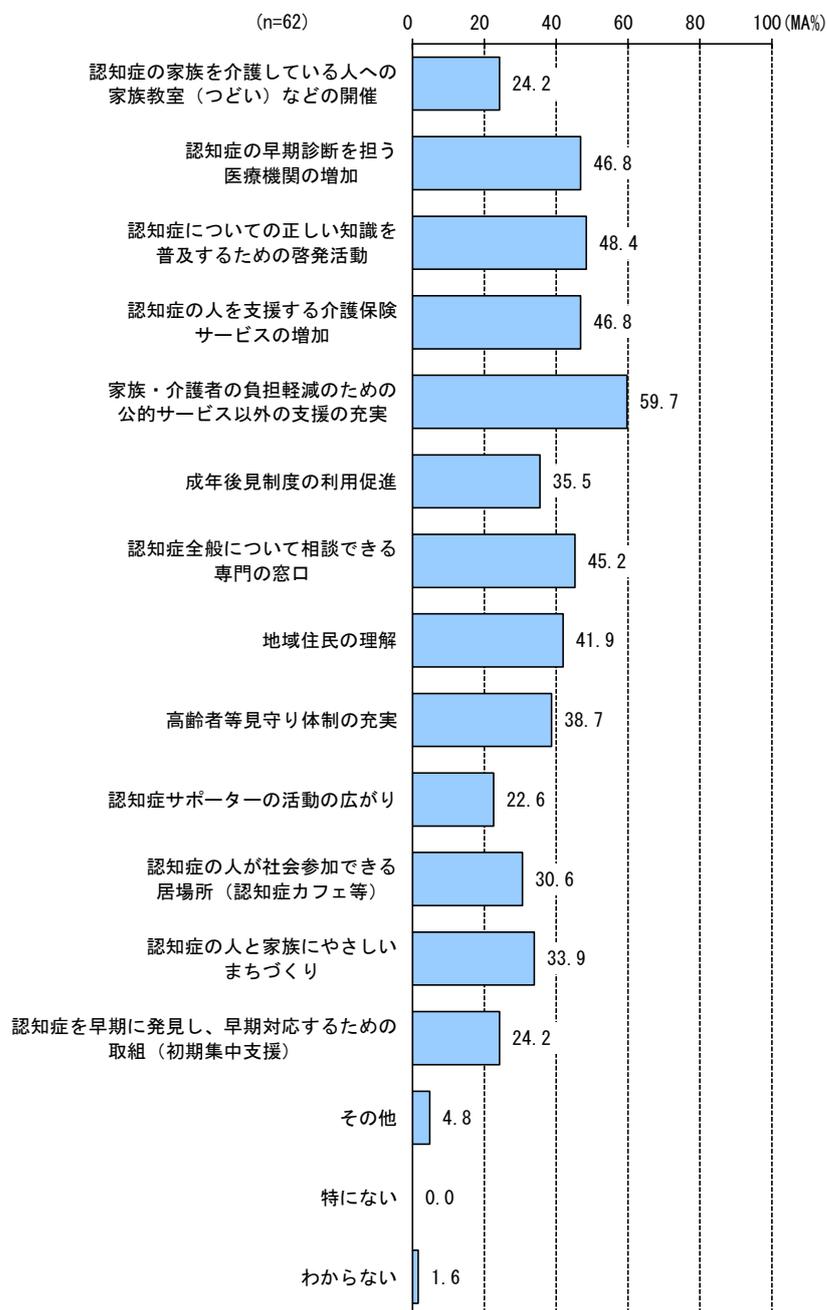
○ 東近江市で、供給量が不足していると感じている介護保険サービスや施設について、「訪問介護」が48.4%で最も多く、次いで「看護小規模多機能型居宅介護」が32.3%、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」が29.0%となっています。



## ◇認知症高齢者への支援について

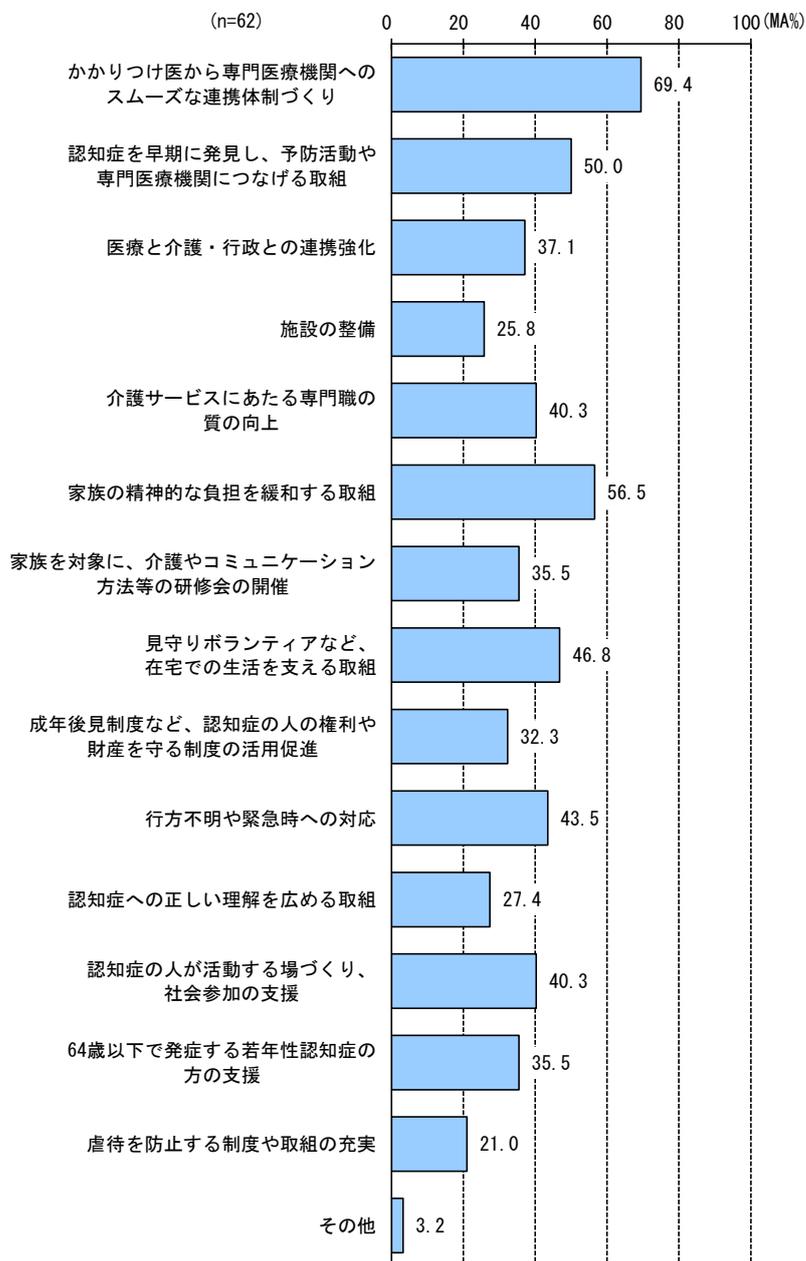
問8 (2) 認知症高齢者への支援で必要なことはどのようなことだと考えますか。(MA)

- 認知症高齢者への支援で必要なことはどのようなことかについて、「家族・介護者の負担軽減のための公的サービス以外の支援の充実」が 59.7%で最も多く、次いで「認知症についての正しい知識を普及するための啓発活動」が 48.4%、「認知症の早期診断を担う医療機関の増加」「認知症の人を支援する介護保険サービスの増加」が 46.8%となっています。



問8 (3) 今後、認知症施策を進めていく上で、東近江市はどのようなことに重点を置くべきだと考えますか。(MA)

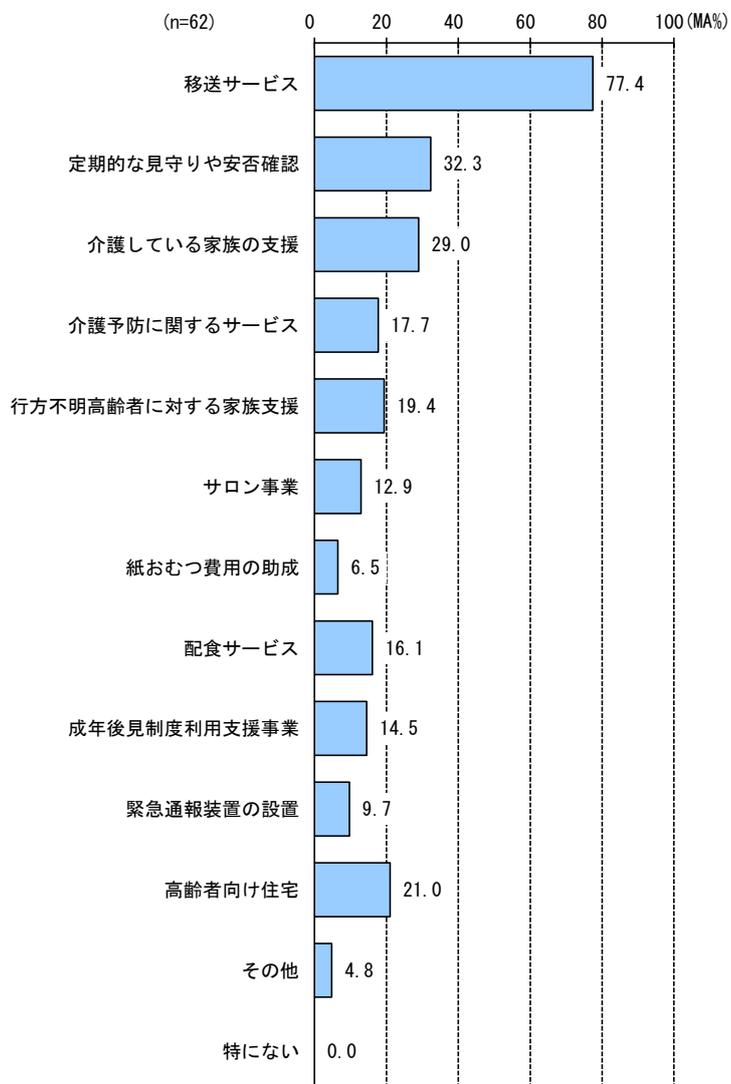
○ 今後、認知症施策を進めていく上で、東近江市はどのようなことに重点を置くべきだと考えるかについて、「かかりつけ医から専門医療機関へのスムーズな連携体制づくり」が 69.4%で最も多く、次いで「家族の精神的な負担を緩和する取組」が 56.5%、「認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療機関につなげる取組」が 50.0%となっています。



## ◇インフォーマルサービスについて

問10 (1) 高齢者への福祉サービスで東近江市が充実すべきサービスや支援活動は何ですか。(MA)

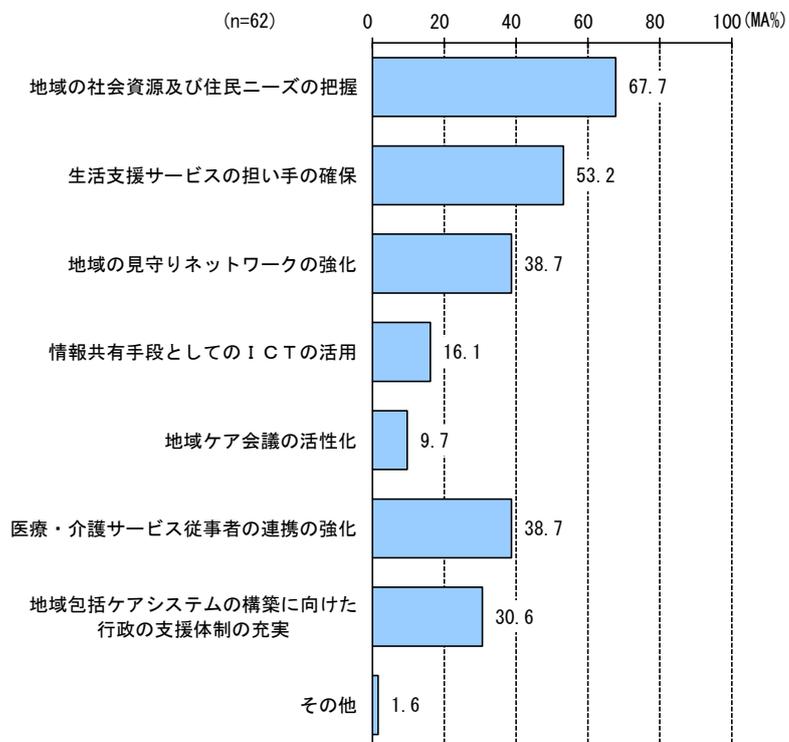
○ 高齢者への福祉サービスで東近江市が充実すべきサービスや支援活動について、「移送サービス」が77.4%で最も多く、次いで「定期的な見守りや安否確認」が32.3%、「介護している家族の支援」が29.0%となっています。



## ◇地域包括ケアについて

問12 (1) 地域包括ケアシステムを構築するために必要だと思われるものは何ですか。  
(MA)

- 地域包括ケアシステムを構築するために必要だと思うものについて、「地域の社会資源及び住民ニーズの把握」が 67.7%で最も多く、次いで「生活支援サービスの担い手の確保」が 53.2%、「地域の見守りネットワークの強化」「医療・介護サービス従事者の連携の強化」が 38.7%となっています。



## <アンケート結果から見る地域の現状と課題>

### ○あなたご自身のことについて

・勤務上の悩み：回答者の 38.7%が「仕事を続けていくための自分の能力や力量に不安がある」と回答し、最も多い悩みとなっています。次いで「給料や手当が低い」(35.5%)、「兼務業務が忙しく、ケアマネジャー業務の時間が十分にとれない」(21.0%)が挙げられています。自身の専門性や待遇、業務量に関する不安が浮き彫りになっている状況がうかがえます。

### ○日常業務のすすめ方について

・業務上の悩み：最も大きな悩みとして、回答者の 59.7%が「記録や報告する書類が多い」ことを挙げています。これは業務負担の大きな要因となっていることを示唆しています。次いで「困難ケースへの対応に時間がとられることが多い」(35.5%)、「担当する業務の範囲が明確でない」(27.4%)といった点が課題として認識されていることが分かります。

・業務外の支援：ケアマネジャー本来の業務以外で行っている支援として、「申請書や書類作成への支援」が 82.3%と突出して多く、次いで「緊急搬送時の対応」(45.2%)、「通院への同行」(43.5%)となっています。事務的なサポートから緊急時の対応まで、多岐にわたる業務外支援がケアマネジャーの大きな負担となっている現状がうかがえます。

### ○介護保険サービス等について

・供給不足のサービス：東近江市において供給量が不足していると感じられている介護保険サービスとして、48.4%が「訪問介護」を挙げており、最も高い割合を占めています。在宅生活を支える基盤となるサービスの不足が深刻な課題となっている現状が読み取れます。次いで「看護小規模多機能型居宅介護」(32.3%)、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」(29.0%)が挙げられています。

### ○認知症高齢者への支援について

・支援に必要なこと：認知症高齢者への支援において最も必要だと考えられているのは、「家族・介護者の負担軽減のための公的サービス以外の支援の充実」であり、回答者の 59.7%がこれを挙げています。また、「認知症についての正しい知識を普及するための啓発活動」(48.4%)や、「認知症の早期診断を担う医療機関の増加」「認知症の人を支援する介護保険サービスの増加」(ともに 46.8%)の必要性も高く認識されている傾向にあります。

・市が重点を置くべき施策：今後、東近江市が認知症施策を進める上で重点を置くべき点として、69.4%という大多数が「かかりつけ医から専門医療機関へのスムーズな連携体制づくり」を挙げています。次いで「家族の精神的な負担を緩和する取組」(56.5%)、「認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療機関につなげる取組」(50.0%)が重要視されていることが確認できます。

### ○インフォーマルサービスについて

・市が充実すべきサービス：高齢者への福祉サービスにおいて、東近江市が最も充実させるべきだと考えられているのは「移送サービス」で、77.4%という圧倒的多数の回答者がその必要性を指摘しています。これは、高齢者の移動手段の確保が地域生活を維持する上で極めて重要な課題であることを示唆していると考えられます。次いで「定期的な見守りや安否確認」(32.3%)、「介護している家族の支援」(29.0%)が求められている結果となりました。

○地域包括ケアについて

・システム構築に必要なもの：地域包括ケアシステムの構築に最も必要だと考えられているのは、「地域の社会資源及び住民ニーズの把握」で、回答者の 67.7%が挙げています。現状を正確に把握することが不可欠であるという認識にあることがうかがえます。次いで、「生活支援サービスの担い手の確保」(53.2%)、「地域の見守りネットワークの強化」および「医療・介護サービス従事者の連携の強化」(ともに 38.7%)が重要視されていることが確認できます。

## 4. 介護保険事業所調査

### <調査の実施について>

対象者	介護保険事業所 178 事業所
実施期間	令和7年11月14日（金）～令和7年12月16日（火）
実施方法	インターネット回答

### <調査票の回収状況>

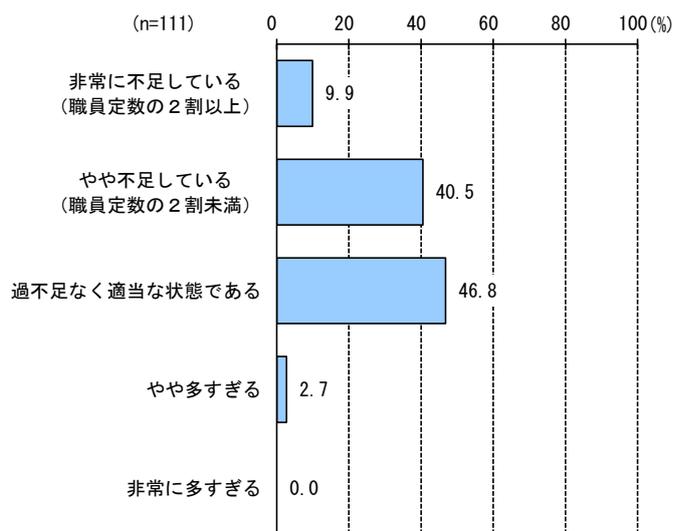
配布数	回収数	有効回答数	有効回答率
178 件	113 件	111 件	62.4%

### ◇貴事業所の運営・人材確保について

問1 (3) 職員の過不足については、どのような状況ですか。

#### 【全体】

- 不足している職種について、「過不足なく適切な状態である」が 46.8%で最も多く、次いで「やや不足している（職員定数の2割未満）」が 40.5%、「非常に不足している（職員定数の2割以上）」が 9.9%となっています。

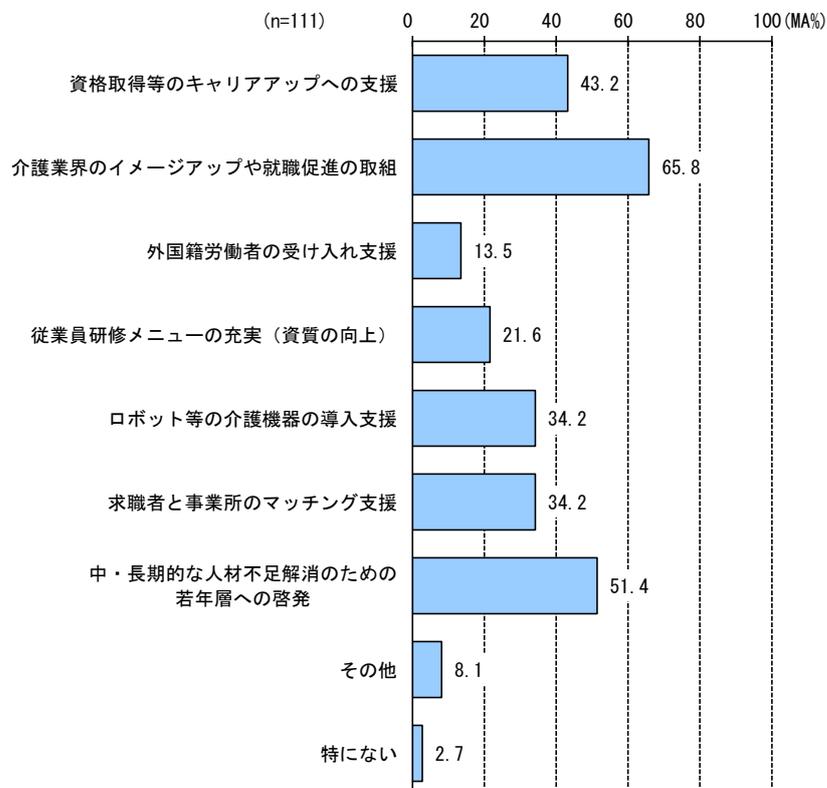


単位：%

	母数 (n)	不足している職種					
		員 非 定 常 数 の 2 割 以 上	定 数 の 2 割 未 満	あ る 過 不 足 な く 適 当 な 状 態 で	や や 多 す ぎ る	非 常 に 多 す ぎ る	
全体	111	9.9	40.5	46.8	2.7	-	
提供しているサービスの種類	居宅介護支援	22	13.6	▼ 18.2	△ 68.2	-	-
	訪問介護	13	7.7	46.2	38.5	7.7	-
	訪問入浴介護	1	-	-	△ 100.0	-	-
	訪問看護	7	-	△ 57.1	▼ 28.6	△ 14.3	-
	訪問リハビリテーション	4	-	△ 75.0	▼ 25.0	-	-
	通所介護	29	3.4	34.5	△ 62.1	-	-
	通所リハビリテーション	6	-	33.3	△ 66.7	-	-
	短期入所生活介護	7	-	△ 71.4	▼ 28.6	-	-
	短期入所療養介護	1	-	△ 100.0	-	-	-
	小規模多機能型居宅介護	5	-	△ 60.0	40.0	-	-
	認知症対応型共同生活介護	9	△ 22.2	44.4	▼ 33.3	-	-
	認知症対応型通所介護	3	-	33.3	▼ 33.3	△ 33.3	-
	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	3	-	△ 66.7	▼ 33.3	-	-
	介護老人福祉施設	7	14.3	△ 57.1	▼ 28.6	-	-
	介護老人保健施設	1	-	△ 100.0	-	-	-
	介護医療院	1	-	△ 100.0	-	-	-
その他	7	△ 42.9	▼ 28.6	▼ 28.6	-	-	

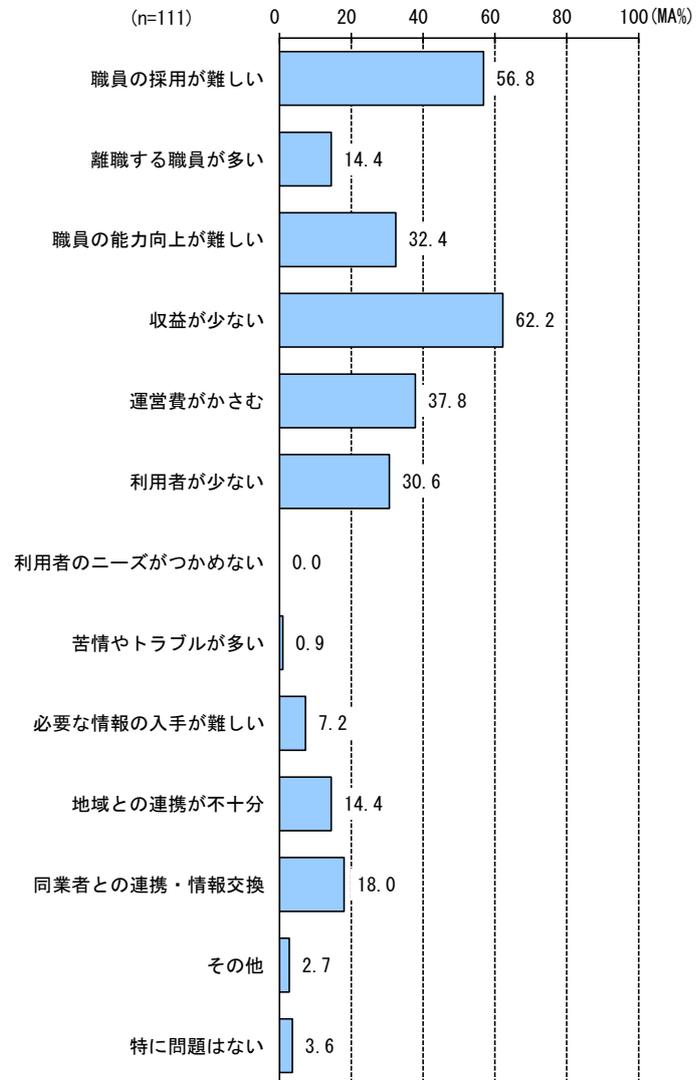
問1 (11) 介護人材不足に対し、行政（国、県、市）に望むことは何ですか。（MA）

○ 介護人材不足に対し、行政（国、県、市）に望むことについて、「介護業界のイメージアップや就職促進の取組」が65.8%で最も多く、次いで「中・長期的な人材不足解消のための若年層への啓発」が51.4%、「資格取得等のキャリアアップへの支援」が43.2%となっています。



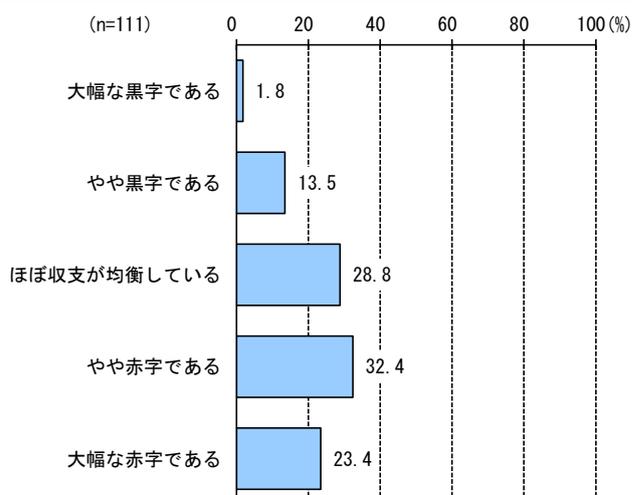
問1 (14) 貴事業所を運営するうえで課題となっていることについてお答えください。  
(MA)

○ 貴事業所を運営するうえでの課題について、「収益が少ない」が 62.2%で最も多く、次いで「職員の採用が難しい」が 56.8%、「運営費がかさむ」が 37.8%となっています。



### 問1 (15) 令和6年度の介護事業収支はどのような状況ですか。

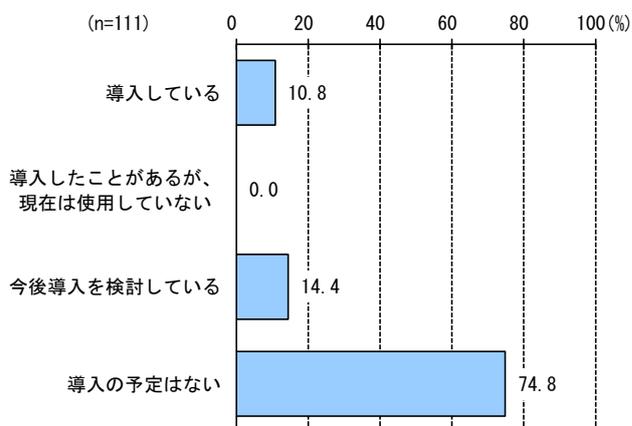
○ 令和6年度の介護事業収支状況について、「やや赤字である」が32.4%で最も多く、次いで「ほぼ収支が均衡している」が28.8%、「大幅な赤字である」が23.4%となっています。



### ◇介護ロボットについて

#### 問2 (1) 貴事業所における介護ロボットの導入についてお答えください。

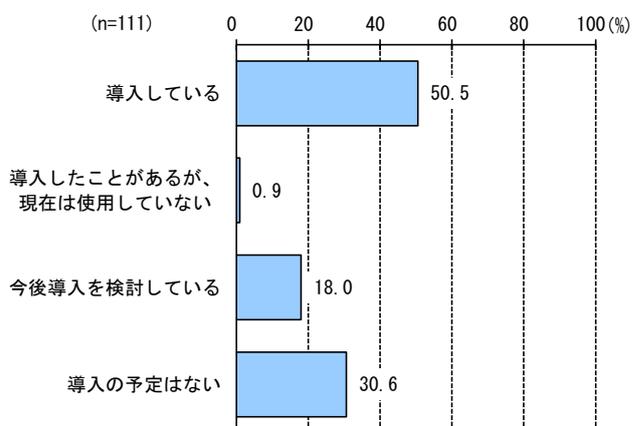
○ 貴事業所における介護ロボットの導入について、「導入の予定はない」が74.8%で最も多く、次いで「今後導入を検討している」が14.4%、「導入している」が10.8%となっています。



## ◇ICTについて

問3 (1) 貴事業所におけるICTの導入状況についてお答えください。

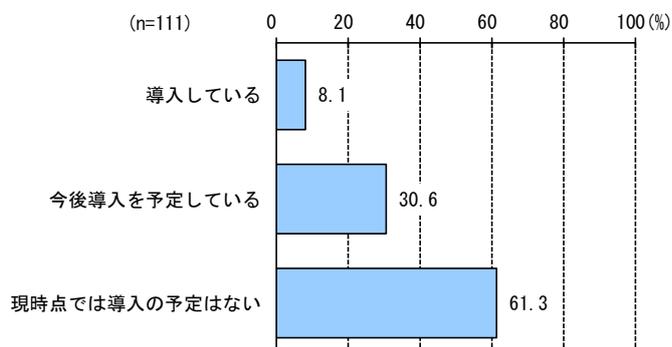
○ 貴事業所におけるICTの導入状況について、「導入している」が50.5%で最も多く、次いで「導入の予定はない」が30.6%、「今後導入を検討している」が18.0%となっています。



## ◇ケアプラン連携システムについて

問4 (1) 貴事業所におけるケアプランデータ連携システムの導入状況についてお答えください。

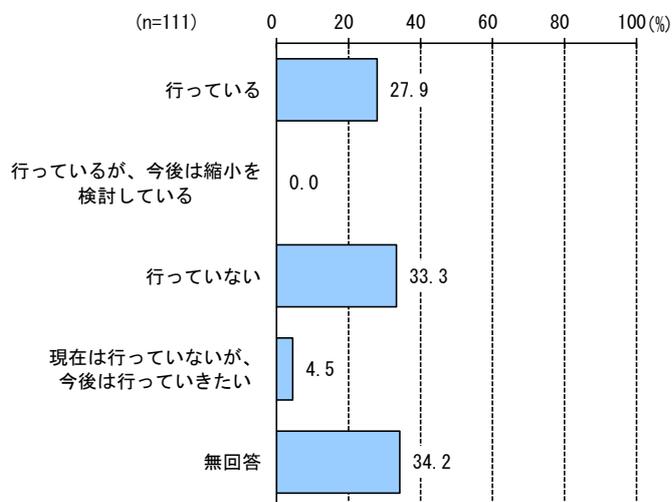
○ 貴事業所におけるケアプランデータ連携システムの導入状況について、「現時点では導入の予定はない」が61.3%で最も多く、次いで「今後導入を予定している」が30.6%、「導入している」が8.1%となっています。



## ◇ターミナルケア（看取り）について

問7 (1) 利用者の看取りは行っていますか。

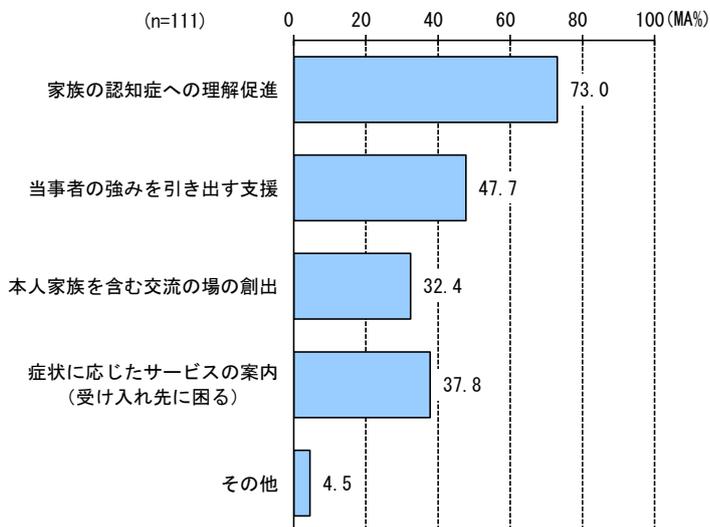
○ 利用者の看取りを行っているかについて、「行っていない」が 33.3%で最も多く、次いで「行っている」が 27.9%、「現在は行っていないが、今後は行っていきたい」が 4.5%となっています。



## ◇認知症ケアについて

問8 (1) 認知症ケアで難しく感じることについてお答えください。(MA)

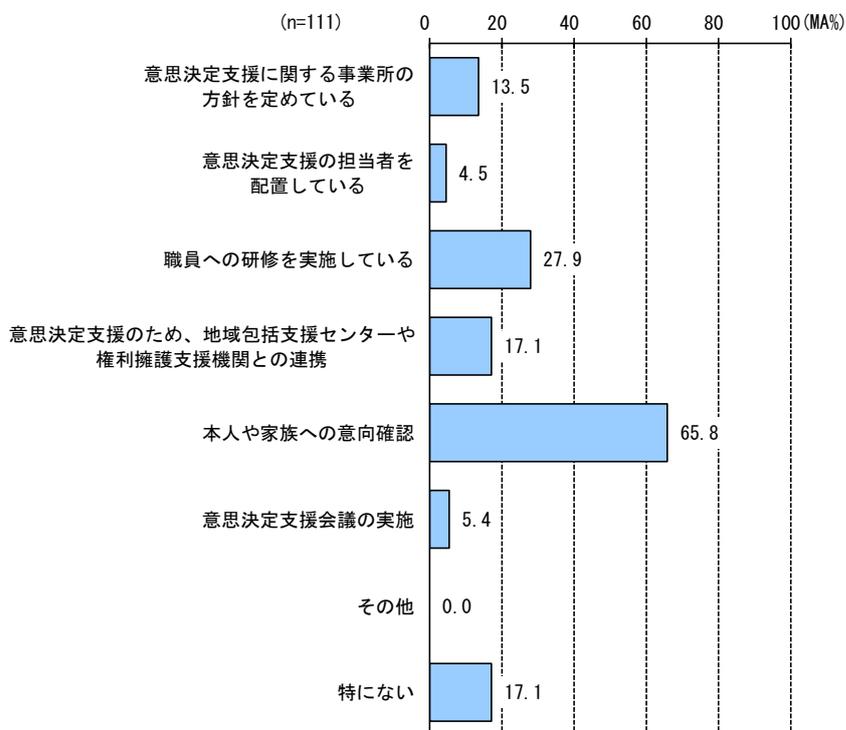
○ 認知症ケアで難しく感じることについて、「家族の認知症への理解促進」が 73.0%で最も多く、次いで「当事者の強みを引き出す支援」が 47.7%、「症状に応じたサービスの案内（受け入れ先に困る）」が 37.8%となっています。



## ◇意思決定支援について

問9 (1) 事業所で取り組まれている内容についてお答えください。(MA)

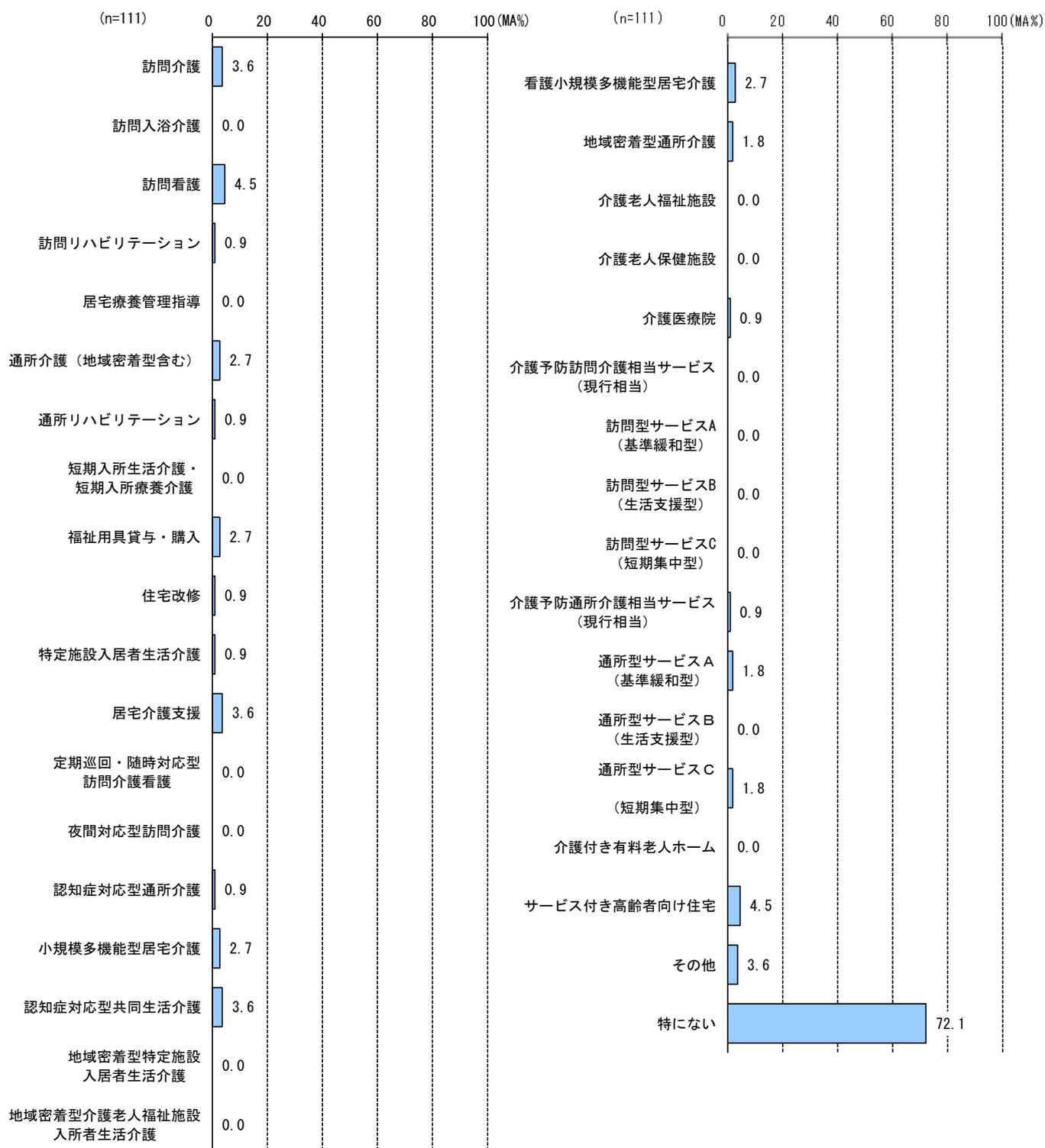
○ 事業所で取り組まれている内容について、「本人や家族への意向確認」が 65.8%で最も多く、次いで「職員への研修を実施している」が 27.9%、「意思決定支援のため、地域包括支援センターや権利擁護支援機関との連携」「特にない」が 17.1%となっています。



## ◇今後のサービス提供意向について

問10 (1) 今後、東近江市において、新規に展開したい（新規に事業実施に取り組みたい）と考えている介護サービスはありますか。(MA)

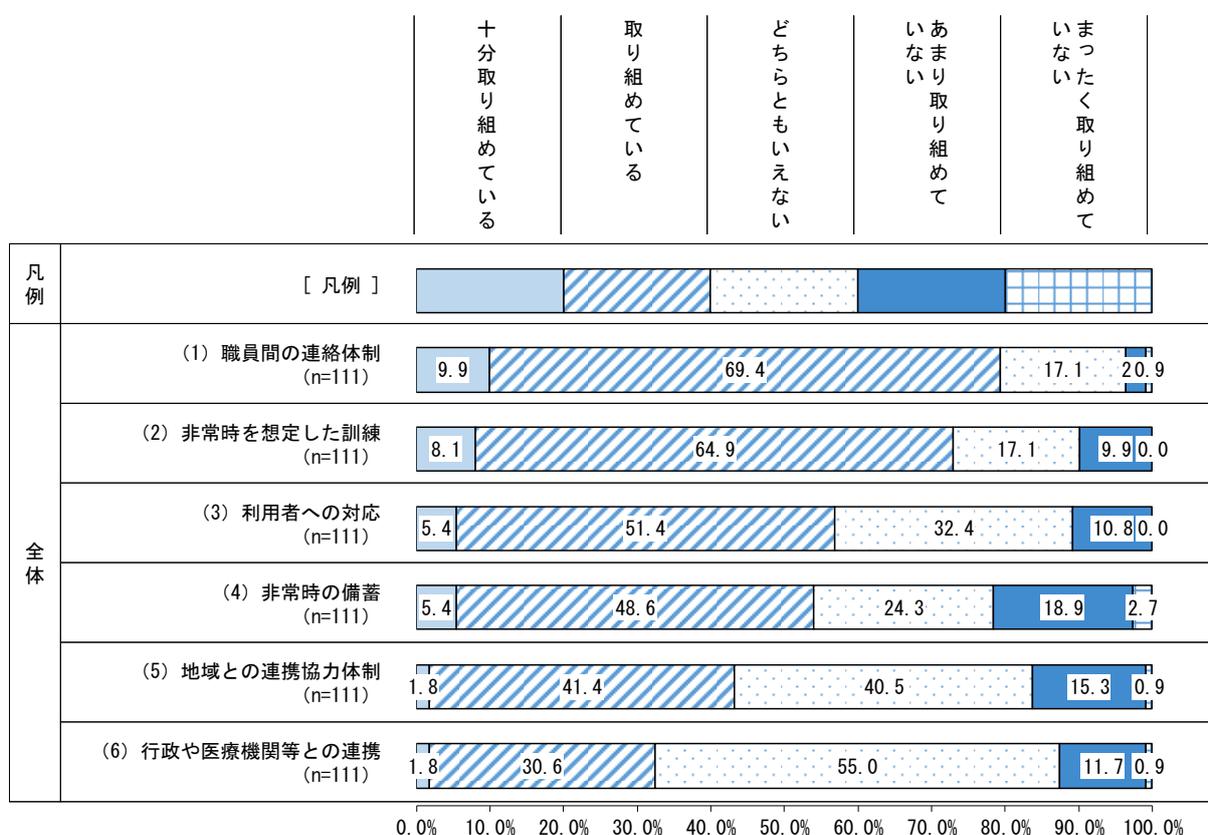
○ 今後、東近江市において、新規に展開したい（新規に事業実施に取り組みたい）と考えている介護サービスについて、「特にない」が72.1%で最も多く、次いで「訪問看護」「サービス付き高齢者向け住宅」が4.5%、「訪問介護」「居宅介護支援」「認知症対応型共同生活介護」「その他」が3.6%となっています。



## ◇地震や風水害について

問11 (1) 災害が発生したときの対策として、現状の取り組み状況についてお答えください。

- 「十分取り組んでいる」は、「(1) 職員間の連絡体制」が 9.9%、「(2) 非常時を想定した訓練」が 8.1%と、他の項目に比べて多くなっています。
- 「取り組んでいる」は、「(1) 職員間の連絡体制」が 69.4%、「(2) 非常時を想定した訓練」が 64.9%、「(3) 利用者への対応」が 51.4%と過半数を超えており、他の項目に比べて多くなっています。
- 「どちらともいえない」は、「(6) 行政や医療機関等との連携」が 55.0%と最も高く、次いで「(5) 地域との連携協力体制」が 40.5%と、外部との連携に関する項目で他の区分に比べて多くなっています。
- 「あまり取り組んでいない」は、「(4) 非常時の備蓄」が 18.9%、「(5) 地域との連携協力体制」が 15.3%と、他の項目に比べて多くなっています。
- 「まったく取り組んでいない」は、「(4) 非常時の備蓄」が 2.7%となっており、他の項目が 1%未満または 0%であるのと比較して、わずかに高くなっています。



## ＜アンケート結果から見る地域の現状と課題＞

### ○運営・人材確保について

- ・ 深刻な経営状況と人材不足の連鎖：令和 6 年度の収支状況において、半数以上（55.8%）の事業所が「赤字」と回答しており、経営の厳しさが浮き彫りになっています。これが運営上の最大の課題である「収益が少ない」（62.2%）という結果に直結しており、次点の課題である「職員の採用が難しい」（56.8%）にも繋がる構造的な問題である状況がうかがえます。
- ・ 行政に求められる具体的な支援策：人材不足解消のために行政に望むこととして、直接的な処遇改善よりも「介護業界のイメージアップや就職促進の取組」（65.8%）が最多となっています。これは、個々の事業所の努力だけでは限界があり、業界全体の魅力を向上させるための広報戦略や、若年層への啓発活動といった、より広範で長期的な視点からの支援が現場から強く求められていることが読み取れます。

### ○介護ロボットについて

- ・ 導入への極めて高い障壁：介護ロボットの導入については、「導入の予定はない」と回答した事業所が 74.8%にのぼり、導入済みはわずか 1 割（10.8%）に留まります。ICT 化の流れとは対照的に、介護現場におけるロボット技術の普及は全く進んでいないという厳しい現状が浮き彫りになっています。

### ○ICT について

- ・ 導入状況は二極化：ICT を「導入している」事業所は 50.5%と約半数に達していますが、一方で「導入の予定はない（30.6%）」と「今後導入を検討している（18.0%）」を合わせると約半数が未導入です。
- ・ 今後の普及に向けた課題：すでに半数が導入済みである一方、約 3 割の事業所が「導入予定がない」と回答しており、必要性を感じていない層が一定数存在することが数値から読み取れます。

### ○ケアプラン連携システムについて

- ・ 導入状況は低調：現状、「導入している」事業所は 8.1%にとどまっており、まだ普及が進んでいない状況です。
- ・ 導入意向：「現時点では導入の予定はない」との回答が 61.3%と過半数を占めており、多くの事業所が導入を見送っている実態があります。一方で、「今後導入を予定している」は 30.6%となっています。

### ○ターミナルケア（看取り）について

- ・ 実施状況の二極化：「行っていない（33.3%）」が最も多いですが、「行っている（27.9%）」事業所も一定数あり、対応が分かれています。
- ・ 今後の意向：「現在は行っていないが、今後は行いたい」という回答は 4.5%に留まっており、新規参入のハードルが高いことが伺えます。

### ○認知症ケアについて

- ・ ケアの困難さが「家族支援」に集中 認知症ケアで最も難しく感じることとして、「家族の認知症への理解促進」が 73.0%と突出しています。これは、現場の困難が、認知症当事者への直接的なケア技術以上に、その家族との関係構築や合意形成にあることがうかがえます。

#### ○意思決定支援について

- ・ 個別の意向確認は定着：事業所での取り組みとして、「本人や家族への意向確認」を行っている事業所が65.8%で最も多く、過半数の事業所で実施されています。
- ・ 組織的・専門的な支援体制の遅れ：一方で、「職員への研修を実施している」は27.9%、「地域包括支援センターや権利擁護支援機関との連携」は17.1%に留まっています。個別の意向確認に比べ、組織的なスキルアップや専門機関との連携といった体制整備には課題が見られます。

#### ○今後のサービス提供意向について

- ・ 新規展開の意向は極めて低い：今後、市内で新規に展開したいサービスについて、「特にない」と回答した事業所が72.1%と圧倒的多数を占めています。
- ・ 一部に見られる展開意向：わずかながら意向があるものとして、「訪問看護」と「サービス付き高齢者向け住宅」が各4.5%、「訪問介護」「居宅介護支援」「認知症対応型共同生活介護」が各3.6%となっています。

#### ○地震や風水害について

- ・ 内部対策と外部連携の明確な差：「職員間の連絡体制」や「非常時訓練」といった事業所内部での取り組みは進んでいる一方、「行政や医療機関等との連携」（「どちらともいえない」が55.0%）や「地域との連携協力体制」といった外部との連携構築が大きな課題として残されています。災害時に事業所が孤立しないための、より広域的な連携体制の構築が急務であると考えられます。
- ・ 具体的な備えの遅れ：「非常時の備蓄」に関しては、「あまり取り組めていない」が18.9%、「まったく取り組めていない」が2.7%と、合わせて2割以上の事業所で、体制や訓練に比べ、物理的な備えが遅れている傾向が見られます。